

ブラジルの養鶏事情

昭和59年 2 月

国際協力事業団

移海外

J R

84 - 9

JICA LIBRARY



1025716[0]

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 4. 20	763
	875
登録No. 10231	ESE

ま え が き

ブラジルの養鶏事情について断片的な資料は数多くあるが、鶏卵、鶏肉の生産・流通状況について全国的に取りまとめた資料に乏しい状況にある。

また近年、養鶏農家の経営は一段と難しくなっていると言われており、当事業団サン・パウロ支部農業情報室に対し、生産・流通状況を含め養鶏に関する情報の照会が数多く寄せられている。

養鶏に関するブラジル国内市場の動向の変化は激しいが過去、何年間の生産・流通状況を全国的に把握し分析することは、将来の方向を検討する上に不可欠であると判断している。

以上の背景から、ブラジル全国を網羅した鶏卵・鶏肉の生産・流通状況について、サン・パウロ支部が実施する、「伯国在住農業専門家派遣事業」において、格別なご協力を賜わっている山本昭吾氏（国友種鶏場技術担当理事）に調査を依頼し、「ブラジルの養鶏事情」として、取りまとめていただいた。

養鶏農家の経営改善・向上を図るために本資料が関係各位にご活用いただければ幸いである。

昭和 59 年 2 月

移住事業部長

目 次

第 1 編 採卵養鶏編

1. 一般概況	1
2. 採卵鶏飼育分布	2
3. 飼育羽数の推移	5
4. 鶏の生産形態	7
(1) 現 状	7
(2) 原種農場	7
(3) 種鶏の生産羽数の推移	8
5. 採卵用商業的鶏の生産孵化場と生産能力	9
6. 鶏卵の流通と価格	11
(1) 流通形態	11
(2) 卵価の形成	12
(3) 卵価の推移- 1	13
(4) 卵価の推移- 2	21
(5) 農家の手取り価格と小売り価格の差比率	25
7. 飼料事情	26
(1) 現 状	26
(2) 飼料供給形態	27
(3) 飼料価格の推移- 1	28
(4) 飼料価格の推移- 2	28
(5) 飼料販売数量の推移	34
(6) 飼料の公後の見通し	36
8. ブラジル採卵養鶏界の好況、不況の動向	37
9. 今後の景気動向の見通し	38
10. 今後のブラジル採卵養鶏界への提言	43
11. その他参考事項	45
(1) ブラジルの鶏病事情	45
(2) ブラジルの鶏卵輸出量	47

第2編 (ブロイラー) 養鶏編

1. 一般概況	49
2. ブロイラー生産地の分布	50
3. ブロイラー生産形態	52
4. ブロイラー鰯の生産形態	53
5. ブロイラー種鶏の生産羽数の推移	55
6. ブロイラー鰯生産能力と実績	63
7. コマーシャル鰯生産種鶏孵化場	63
8. 日系のブロイラー鰯生産種鶏孵化場	64
9. ブロイラー屠殺場	64
10. サンパウロ州の屠殺場	65
11. ブロイラー生産の景気の動向	66
12. ブロイラー価格の推移	67
13. ブロイラーの流通消費形態	74
14. ブロイラー肉と牛肉価格についての諸統計	75
15. ブロイラー肉の輸出状況	77
16. ブロイラー用飼料の消費量の推移	79
17. ブロイラー用飼料価格の推移	79
18. ブロイラー生産の今後の見通し	82
19. ブロイラー生産の問題点	82

第1編 採卵，養鶏編

1. 一般概要

1983年4月10日現在のブラジル採卵養鶏界は、暗く長かった不況を通り抜け、待望の好況に転じ前途に光明を見出した感じである。現在の卵価は、卸し価格、TIPO GRNDE (大)でダース当りCR\$215.00、1箱(30ダース)当りCR\$6,450.00、農家手取額は聖市近郊に於てCR\$5,482.00、奥地生産地に於てCR\$4,350.00程度である。

一方飼料価は成鶏用飼料kg当り、聖市近郊でCR\$55.00～60.00、奥地生産地に於てCR\$50.00～55.00であり、利益率計算の尺度となるFeed Egg Ratioは、近郊に於て30～330、奥地に於て2.6～2.9となっている。

鶏卵1箱当りの平均利益額は、聖市近郊に於てはCR\$1,400からCR\$1,500、奥地生産地に於ては、CR\$650～750程度と推定される。

これは成鶏羽数2万羽程度の平均的養鶏家の時間所得として近郊では、CR\$174万、奥地では、CR\$84万程度と推算される。

この好況が今後幾ヶ月位続くかが、養鶏農家の知り度いところであろうと思うが、この好況に転じた理由は、昨年9月から今年2月迄続いた。史上最悪の不況の反動であり、この6ヶ月間の不況によって受けた養鶏農家の欠損は、一部の例外を除けば成鶏1羽当り、CR\$300程度と計算される。平均的な2万羽規模の養鶏家ではCR\$600万である。これに金利を加算すれば(年利60%)CR\$960万となり、傷あとは非常に深く、完全回復にはまだ4ヶ月位かかり本当の利益を生み出すのはその後ということになる。

養鶏の好況、不況は天災的なものを除けば、洋の東西をとわず鶏卵需給のバランスによって決まる。昨年9月から今年2月迄の不況は鶏卵需要総個数、推定月間11億個(6,500万消費人口×16.6個)に対して、供給量(生産量)12億9,000万個位、(成鶏6,000万羽×72%×30日)と約1億9,000万個、172%位が供給過剰になっていたと推定できる。今年3月以降は、この成鶏羽数がほぼ10%減の5,400万羽程度に減少し、生産量は月11億6,000万個程度、これに対して消費量は、他の副食品価格に比し割安であったこと、時期的に鶏卵の季節的に消費量が增大する時期に当たったことに伴って、月間12億個程度になったものと推定され、ここにはじめて需給バランスが反転し、僅か乍ら供給不足になったと考えられる。

現在、ブラジル全体の成鶏総羽数は、(確実な数字は無い)1981年1月から1981年12月に飼付けした総羽数から逆算すれば、白、31,197,000羽+赤10,004,000羽、計41,201,000羽)5,500万羽程度であり、ブラジルの適正羽数の範囲内と考えられるし、需要面でも3,4,5,6,7月は年間で最も鶏卵消費の多い月でもあり、他の副食品に比し割高となるような無茶な値上げによる消費減少が無ければ、ここ当分の間は好況が続くものと予想される。

(註) 1982年の飼付羽数は48,000,000羽以上であるが、不況によって羽数が減っている
ので1981年を基準とした。

2. 採卵鶏飼育分布

ブラジルの総面積は851万1,965km²と広大であり、日本の約23倍といわれている。これを22州、4連邦直轄区、1連邦区計27に分かれ、総人口は約1億2,000万人強といわれている。

経済活動圏としては、下記の5地方に分けられている。

(1) 北 部 地 方

アクレ、アマゾナス、パラナ、ロンドニア州、ローライマ、アマパ直轄区

(2) 北 東 地 方

ベルナンブーコ、セアラ、バイア、北リオグランデ、アラゴアス、セルジッペ、マ
ラニオン、ピアウイー、パライーバ州、ヘルナンドノロニア直轄区

(3) 中 西 部 地 方

ゴイアス、北マントグロッソ、南マットグロッソ州、連邦区

(4) 南 東 地 方

サンパウロ、ミナスゼライス、リオ・デ・ジャネイロ、エスピリットサント州

(5) 南 伯 地 方

南リオグランデ、パラナ、サンタカタリーナ州

採卵鶏の地方別及び州別の飼育状況を見ると推定を含めて夫々表1及び表2のようであった。

(表-1) 地方別採卵鶏分布状況

地方区分	項目	数量	比率
北部地方	飼付羽数	817,095羽	1.98%
	推定成鶏羽数	1,102,950羽	
北東部地方	飼付羽数	4,891,925羽	11.87%
	推定成鶏羽数	6,604,065羽	
中西部地方	飼付羽数	1,812,090羽	4.39%
	推定成鶏羽数	2,446,200羽	
南東部地方	飼付羽数	25,175,441羽	61.10%
	推定成鶏羽数	33,986,250羽	
南伯地方	飼付羽数	8,504,808羽	20.64%
	推定成鶏羽数	11,481,480羽	
合計	飼付羽数	41,201,359羽	100%
	推定成鶏羽数	55,621,000羽	

(註) 1. UBA=ブラジル養鶏ユニオン1982年度資料

(1982年度1カ年間に飼付された初生雛は、白鶏31,197,437羽、赤鶏10,003,922羽、計(白・赤総羽数)41,201,359羽)を引用し、逆算して算出した。

2 地方区分は、ブラジル国の行政区分によった。

3 比率 = $\frac{\text{当該地方飼育羽数}}{\text{合計飼育羽数}} \times 100$ をもって算出

(表-2) 州別採卵鶏分布状況

地方区分	項目	数 量	比 率
サンパウロ州	飼付羽数	18,857,962羽	45.77%
	推定成鶏羽数	25,456,695	
パラナ州	飼付羽数	4,619,453	11.21
	推定成鶏羽数	6,235,650	
ミナス州	飼付羽数	4,076,336	9.89
	推定成鶏羽数	5,502,600	
南リオ・グランデ州	飼付羽数	3,347,644	8.12
	推定成鶏羽数	4,519,260	
ベルナンブーコ州	飼付羽数	2,214,330	5.37
	推定成鶏羽数	2,989,305	
セアラ州	飼付羽数	1,682,190	4.08
	推定成鶏羽数	2,270,956	
リオ州	飼付羽数	1,348,615	3.27
	推定成鶏羽数	1,820,610	
ゴイヤス州	飼付羽数	969,460	2.35
	推定成鶏羽数	1,308,771	
エスピリトサント州	飼付羽数	892,528	2.16
	推定成鶏羽数	1,204,875	
サンタ・カタリーナ州	飼付羽数	537,711	1.30
	推定成鶏羽数	725,895	
南マツト グロソン州	飼付羽数	427,400	1.03
	推定成鶏羽数	576,990	
パラ州	飼付羽数	419,780	1.01
	推定成鶏羽数	566,703	
連邦区	飼付羽数	382,270	0.92
	推定成鶏羽数	516,064	
アマゾナス州	飼付羽数	281,230	0.68
	推定成鶏羽数	379,660	
北リオ グランデ州	飼付羽数	244,610	0.59
	推定成鶏羽数	330,223	
その他の州	飼付羽数	899,840	2.18
	推定成鶏羽数	1,214,800	

表-2からサンパウロ州が全ブラジルの45.77%を占めていることが判る。大消費都市をひかえ、更に飼料原料の生産地であるサンパウロ、パラナ、ミナス、リオ、ゴヤスの5州の占める率は72.49%にのぼっている。

3. 飼育羽数の推移

1971年からの採卵鶏の飼育羽数（飼付羽数）の推移を見ると表-3の通りである。

（表-3） 飼育羽数の推移

（単位：千羽）

年 度	白 卵 用	赤 卵 用	計	対前年増羽数	対前年比 (%)
1971	19,629	3,056	22,685		
72	16,100	3,253	19,353	- 3,332	- 14.69 %
73	16,647	3,158	19,805	+ 452	+ 2.33
74	19,886	4,285	24,171	+ 4,366	+ 22.05
75	19,806	3,650	23,456	- 715	- 2.95
76	22,500	4,323	26,823	+ 3,367	+ 14.35
77	23,800	5,080	28,880	+ 2,057	+ 7.66
78	26,152	6,722	32,872	+ 3,994	+ 13.82
79	28,522	7,027	35,549	+ 2,675	+ 8.13
80	29,224	8,556	37,780	+ 2,231	+ 6.27
81	31,197	10,004	41,201		
82	36,819	11,821	48,640	+ 7,439	+ 18.05

（註）(1) 1971年から1980年度迄は、A. P. A.=パウリスタ養鶏協会の調査資料によるもので、この羽数は全ブラジルの85%から90%を占めている。

(2) 1981年及び82年は、U. B. A.の調査資料によるもので、これは全ブラジルの数字である。80年81年の対前年増羽数はその理由で計算していない。

(3) 各資料から1,000羽以下は四捨五入して算出した数値をもって表示した。

これらの数字から見ると、1971年から80年の10カ年間の増加率は、22,685,000羽から37,780,000へと増加し、その増加羽数は15,095,000羽で、66.54%増となっている。又、1978年から82年の5カ年間では（U. B. A.=ブラジル養鶏ウニオンとの修正85%として）38,675,000から48,640,000へと増加し9,965,000羽増で、25.76%増となった。

(表-4) 地方別採卵鶏飼育羽数の推移

(単位) 羽数=羽, 比率=%

地方区分 年度	北部		北東部		中西部		南東部		サンパウロ州		南部		全国合計	
	羽数	対全国比	羽数	対全国比	羽数	対全国比	羽数	対全国比	羽数	対全国比	羽数	対全国比	羽数	対全国比
1971	332012	1.46%	807365	3.55%	305798	1.34%	2731908	12.04%	16098510	70.96%	2409247	10.62%	22684840	
1972	269830	1.39	313358	1.61	290145	1.49	2530053	13.07	13857946	71.60	2091912	10.80	19353244	+14.68%
1973	323180	1.63	576699	2.91	347383	1.75	2753031	13.90	13608020	68.70	2196792	11.09	19805105	+23.3
1974	275110	1.13	729001	3.01	306540	1.26	4026073	16.65	16096820	66.59	2736775	11.32	24170319	+22.04
1975	269380	1.14	715710	3.05	394680	1.68	3249125	13.85	15616089	66.57	3209677	13.68	23455461	-29.5
1976	432147	1.61	448476	1.67	492100	1.83	3945658	14.71	18117804	67.77	3376306	12.58	26822491	+14.35
1977	635280	2.19	591280	2.04	849780	2.94	4645152	16.08	18260260	63.22	3898517	13.49	28880269	+7.67
1978	648255	1.97	1077175	3.27	1120925	3.40	5976500	18.17	19474835	59.24	4576571	13.92	32874225	+13.82
1979	719302	2.02	2122620	5.97	1845915	5.19	5216782	14.67	19603513	55.14	5216782	14.67	35548943	+8.13
1980	691439	1.83	3278225	8.67	2094804	5.54	6378008	16.88	18849803	49.89	5432090	14.37	37779932	+6.27
1981	817095	1.98	4891925	11.87	1812090	4.39	6317479	15.33	18857962	45.77	8504808	20.64	41201359	+9.05
10年間 (1971~ 1980年度) の増羽状況	359427	10.825%	2470860	30.604%	1789006	5.8502%	3646100	13.346%	2751293	17.09%	3022843	12.546%	15095092	66.54%

(註) 1. 項目欄の「対全国比」= $\frac{\text{当該地方羽数}}{\text{全国羽数}} \times 100$ をもって算出, 及び全国合計の「対前年増減比」= $\frac{\text{当該年度羽数} - \text{前年度羽数}}{\text{前年度羽数}} \times 100$ をもって算出

2. 比率は, 少数点第3位を切り捨てて算出, なお+, +が増加を, -が減少を表示したものである。

3. 10年間(1971~1980年度)の増羽状況欄の「羽数」=1980年度羽数-1971年度羽数をもって算出及び「同左増加率」= $\frac{1980年度羽数 - 1971年度羽数}{1971年度羽数} \times 100$ をもって算出

4. サンパウロ州は行政区分的には南東部地方に入るが, 同州がブラジル国最大の鶏卵生産州であることから, 本表では南東部地方をサンパウロ州を除いた南部地方とサンパウロ州に分けて表示した。

表-4は各地別の飼育羽数の推移を見たものである。

1971年度から1980年の10年間の飼付羽数の増加状況を見ると次の順位で増加している。

1位	南東部地方	ミナス、リオ、エスピリト、サント等諸州	3,646,100羽
2位	南伯地方	パラナ、サンタカタリーナ、南リオグランデ等諸州	3,022,842
3位	サンパウロ州		2,751,293
4位	北東地方	ベルナンブーコ、セアラ等諸州	2,470,360
5位	中西部地方	ゴヤス、南北、マントグロソ連邦区等諸州	1,789,006

また増羽率の最も高い順から見ると

1	中西部地方	585.0%	5.85倍
2	北東地方	306.0%	3.06倍
3	南東部地方	133.4%	1.33倍
4	南伯地方	125.4%	1.25倍
5	北部地方	108.2%	1.08倍
6	サンパウロ州	17.1%	

等となっている。

本表から推定出来るサンパウロ州の養鶏は、1971年度時は全ブラジルの約70%を占めていたが、それが徐々に低下し、75年度は66.5%、80年度は49.9%、81年度は、45.7%に低下している。

これは政府の方針として開発のおくれていた地方の発展を計ったことと各州が自州内での生産を計ったことに原因している。

(それ以前は、サンパウロ州の生産卵が流入していたものである。)

4. 雛の生産形態

(1) 現 状

ブラジルに於ける初生雛の生産形態は、他の先進国同様に諸外国から輸入した祖父母種鶏、grande parents Stock (略G.P.S.)を原種鶏農場が飼育し、生産した種鶏、Parante Stock (略P.S.)を各種鶏場が購入飼育し、その種鶏から生産した種卵を孵化し、商業用雛、Comercial Checkを作り、各養鶏農家に販売するシステムである。

(2) 原種農場

当国における1983年4月現在の採卵用鶏種の原種農場は次のとおりである。

- ① 伊藤種鶏場（所在地：サンパウロ州パウリーニャ市）
鶏種：Hyline（ハイライン 白，赤） G.P.S.は北米より輸入
- ② ブラジル，デカルゴ社（直営農場所在地：サンパウロ州パウリーニャ市）
鶏種：Dekalb（デカルブ 白，赤）
G.P.S.は北米より輸入
- ③ コチア産業組合（所在地：サンパウロ州アラソイアーバ市）
鶏種：Hi Ses（ハイセックス 白，赤）
G.P.S.はオランダより輸入
- ④ ブラジル，イザ社（所在地：サンパウロ州サルト市）
鶏種：Babcock（バブコック白）/ SA, Brown（イギブラウン）
G.P.S.は北米とフランスから輸入
- ⑤ ブラジル，アーバーエーカー社（直営農場所在地：サンパウロ州リオクラーロ市）
鶏種：Harco（ハルコ赤）
G.P.S.は北米から輸入

1981年及び1982年度における種鶏（P.S.）雌雛の生産販売羽数（輸出羽数を除いた国内飼付羽数）は、

1981年	白	734,709羽	赤	228,905羽	計	963,614羽
1982年	白	638,497 "	赤	269,259 "	"	907,756 "
年平均	白	686,603 "	赤	249,082 "	"	935,685 "

となりこの種鶏飼付羽数から計算した初生雛の生産能力は

種鶏白1羽70羽の生産として 48,062,210羽

種鶏赤1羽65羽の生産として 16,190,330羽

計 64,252,540羽となる

現状のブラジルでの適正羽数維持に必要な雛羽数は年間4,000万羽乃至4,200万羽であるといわれており、これから考察するとこの64,25万羽は非常に多過ぎると言えよう。

(3) 種鶏（P.S.）の生産羽数の推移

ブラジルに於ける種鶏（P.S.）の生産羽数の推移を見ると

1971年から80年の10年間で

白の種鶏においては 12,952羽減（1.93%の減少）

赤の種鶏においては 109,381羽増（67.6%増羽）

1978年から82年の5年間で

白の種鶏においては 100,272羽増（180%の増羽）

赤の種鶏においては 109,300羽増（52.1%の増羽）

白、赤合計では

1971年から80年の10カ年間で160,063羽増(20.8%の増羽)

1978年から82年の5カ年間で209,574羽増(27.3%の増羽)

を示している。特に赤卵用種鶏の増羽が顕著であった。

(表5) 各年度別種鶏(P.S)生産販売羽数

(単位:羽)

年 度	採 卵 鶏			肉 用 鶏
	白卵用鶏	赤卵用鶏	計	
1969	565,900	135,700		2,470,700
1970	670,281	118,900		2,545,355
1971	606,650	161,763		3,114,463
1972	472,654	173,149		3,905,843
1973	516,489	115,644		3,907,234
1974	423,762	101,263		5,280,646
1975	456,984	125,920		4,727,338
1976	495,009	124,835		5,956,861
1977	471,504	142,380		6,310,788
1978	556,948	209,549		7,319,962
1979	545,808	297,918		8,768,209
1980	657,329	271,147		12,105,311
1981	765,509	313,706		12,711,394
1982	657,222	318,849		12,133,660

(註) 出所: U B A = ブラジル養鶏ユニオン

5. 採卵用コマーシャル雛の生産孵化場と生産能力

1983年4月時点におけるコマーシャル雛の生産孵化場と生産能力は次のように推定される。

	種 鶏 場 名	所 在 地	銘 柄	生産能力月産(白,赤)
1	伊藤種鶏場	サンパウロ	ハイライン	100万~130万羽
2	コチア産組	"	ハイセックス	50万~60万羽
3	長尾種鶏場	"	デカルブ	35万~45万羽
4	産組中央会	"	バブコック	30万~40万羽
5	信太種鶏場	"	シェーパー	20万~25万羽

	種 鶏 場 名	所 在 地	銘 柄	生産能力月産(白,赤)
6	国友種鶏場	サンパウロ	バブコック	15万～17万羽
7	アーバーエーカー社	"	ハルコ	15万～17万羽
8	グアナバラ種鶏場	リオ	グアナバラ	15万～18万羽
9	滋野種鶏場	サンパウロ	デカルブ	12万～13万羽
10	南伯産組	"	バブコック	8万～11万羽
11	小野田種鶏場	"	"	8万～10万羽
12	後藤種鶏場	"	ゴトー	10万～13万羽
13	APIL(日系)	パラ	シェーパー	5万～6万羽
14	A. FRANKEN	南, 大河	デカルブ	5万～6万羽
15	G. WALKIRIA	エ, サレト	"	5万～6万羽
16	G. REGINA	セアラ	"	5万～6万羽
17	S. B. UNA産組	ベルナンブーコ	バブコック	5万～6万羽
18	G. S. BERNALDO	"	デカルブ	4万～5万羽
19	水馬種鶏場	サンパウロ	ハイセックス	5万～6万羽
計				352万～440万羽

(註) 水馬種鶏場は4月に閉鎖

その他小羽数生産の孵化場が、小數有り

採卵鶏雛の生産孵化場はブラジル養鶏の先進州だけあって、サンパウロ州が圧倒的に多く、ブラジル全体440万羽中387万、87.9%程度を占めている。また日系の孵化場は19孵化中12を占め、上位から10位迄は総べて日系であり、なかでも伊藤種鶏場が飛び抜けて大きい。採卵鶏孵化場でブラジルの4大孵化場といわれる伊藤種鶏場、コチア産組長尾種鶏場、産業組合中央会の生産能力は全ブラジル440万に対して275万羽(62.5%)を占める。従って、生産過剰によって起るブラジル採卵養鶏界の好、不況の鍵はこの4大孵化場にゆだねられていると考えられる。

日系孵化場でも、1980年に柴田種鶏場(月産25万～30万羽規模)昨年(82年)は、日系の有名な老舗孵化場であった酒井種鶏場(月産20万～25万羽規模)がそれぞれ閉鎖、更に今年(83年)は水馬種鶏場が中止した。これは孵化場全体の生産能力がブラジル全体の需要を大巾に上回るようになったことにより孵化業者間で熾烈な生産販売競争が行われた結果によるものと見られる。

6. 鶏卵の流通と価格

(1) 流通形態

近年は鶏卵流通段階はかなり短縮され、新鮮な卵が消費者に渡るようになって来たが、生産地、取扱業者、販売店によっては新鮮卵とは言えない鮮度のおちた卵を販売している。これはスーパーマーケット（以下「スーパー」という）とか、小売店が、卵は葉野菜類と同様な生鮮食品であるという自覚に乏しいことが一番の原因と考えられる。

現状の鶏卵の流通段階において生産者から直接消費者へ販売するのは都市近郊の一部の養鶏家のみで、他は1～2又は2～3段階を経て消費者に渡っている。直営卸し販売所を所有する大規模養鶏家を除けば

- ① 生産者→組合G Pセンター→各市場の卸し販売倉庫→大卸し、卸し販売（スーパー又は小売店）
- ② 生産者→地方集荷倉庫→各市場の卸し販売所→卸し販売→小売販売
- ③ 生産者→鶏卵者扱い業者（集荷倉庫）→各市場の転送各市場で卸し販売→小売販売
- ④ 生産者が直接小口卸し販売
- ⑤ 生産者が直接、パレジョン、又はフェイラで小売販売

組合又は取扱業者に出荷する場合、その容器（バンデュイジャ、ダンボール箱）は業者持で庭先渡しである。

- ⑥ ブラジルシェーパー社（直営農場所在地サンパウロ州パウリーニャ市）
鶏種：Shaver（シェーパー白赤）
- ⑦ 後藤種鶏場（直営農場所在地サンパウロ州タッイ市）
鶏種：後藤（白赤（ブラジル唯一の日本鶏））
G.P.S.は日本より輸入
- ⑧ グアナバラ種鶏場（所在地リオ州）
鶏種：Guanabara（グアナバラ白赤）
唯一のブラジル国産改良鶏である。

以上8原種鶏農場が種鶏（P.S）の生産を行なっている。

（註）なおブラジルシェーパー社が4月11日付で閉鎖したので以降は7種農場となった。

ブラジルの雛生産形態が日本と異なる最も大きな特徴は

イ ブラジル政府の法令により、1971年以降、種鶏の輸入は原種鶏（G.P.S）に限られ、種鶏（P.S）の輸入は不可能、従って原種農場を持つ有名銘柄鶏4～5に集中して来たこと。

ロ 原種鶏農場が種鶏（P.S）の生産販売とともに直営種鶏場を合せて所有し、コマーシ

ャル雛の生産販売をしていること。

の2点であり、伊藤種鶏場、コチア産業組合、後藤種鶏場、アーバー・エーカー社、グアナバラ種鶏場がこの形態を取っている。これに対し日本の場合は、原種農場はP.Sの生産販売のみで特約孵化場が商業雛を生産販売するシステムを取っている。これに対し日本の場合は、原種農場はP.Sの生産販売のみで、特約孵化場が商業雛を生産販売するシステムを取っている。

(2) 卵 価 の 形 成

現在ブラジルにおける鶏卵価格、建値は、サンパウロ。リオ・デ・ジャネイロの二大市場の他、クリチバ、レシーフェ、ブラジリア、ベレン等の市場においても行われているが、サンパウロの市場の建値が中心である。サンパウロ市場の建値は、A.P.A (パウリスタ養鶏協会)の鶏卵卸がイニシヤチーブを取り不定期に鶏卵審議会を開いて価格を決めている。

本審議会のメンバーは、鶏卵取扱い業者、組合関係、販売組織を有している大規模養鶏家等々である。

鶏卵取扱い業者は、小は月4,000箱(30ダース)大は15万箱と取扱う数量は異なるので意見が一致しない場合は、取扱い数量に比例した投票数で採決し建値を作っている。

建値は卸し価格であるが、大きさにより特大(EXTRA)、大(GRANDE)、中(MEDIA)、小(PEQUENO)、極少(INDUST)の5段階に等紀を分け、それぞれ等級別の卸し価格と、農家価格が決められる。

4月10日現在のサンパウロ市場に於ける、卸し価格及び農家価格はダース当り(白卵)は次表のとおりであった。なお赤卵はEXT24.00 GRA18.00 MED12.00等であった。

等級	項目	容器付卸し価格(A)	農家価格(B)	差(A-B)
EXT(特大)		CR\$ 226.00	CR\$ 156.00	CR\$ 70
GRA(大)		" 215.00	" 146.00	" "
MED(中)		" 206.00	" 136.00	" "
PEQ(小)		" 188.00	" 118.00	" "
IND(極小)		" 169.00	" 99.00	" "

鶏卵取扱い業者及び産業組合は、養鶏農家から出荷された、又は買い取った鶏卵をこの卸し価格で、スーパー、食品店、小売店、フェイランテ(街頭移動小売店のことをいい以下これを「フェイランテ」という)、レストラン等に販売するが価格はまちまちである。特に大口業者や組合関係の値引きが大きい。4月現在の鶏卵が不足気味の時でさえ、この卸し価格で販売しているところは小さく、1箱当りCR\$500~600の値引き(ディスカウント)

を行っているのが普通である。特に大量購入するスーパーマーケットの場合は、売り込みが過当競争気味になり、割引きまたは、支払いを30日、45日、60日等好条件を付している。これがブラジルの鶏卵流通面の最大の欠点になっていると思われる。

また、鶏卵建値が農家庭先価格（以下「農家価格」という）と容器込み卸し価格に分けられてから、もう10年以上になるが、この方法は良い面と悪い面が有り、悪い面では生産地域の異なる養鶏農家の手取り額に大巾な差が生じる原因となっている。

例をあげると

サンパウロ近郊養鶏農家は消費市場に近いこと、また鶏卵が新鮮であるとの利点でフェイランテ、又は小口取扱い業者が直接養鶏家へ卵を取りに来る。この場合、容器（箱、パンデージャ）はこの業者持ちである。買取り価格は現金支払いで、卸し価格を基準にして、その価格から10%、12%、15%、18%引きで、引取って行く。近郊のスザノ市では10%から13%、モジ市では15%から18%である。

モジ市の15%引きで計算すると

GRANDE(大)級で卸し価格ダースCR\$21500、1箱CR\$6450.00農家手取額はCR\$ $6450 \times (1 - 0.85) = \text{CR\$}5,482.00$ となる。

これがサンパウロの奥地、または北パラナ方面では農家価格を基準として（1箱CR\$43800）プラスCR\$200.00からマイナス25%で買取っている。大半は農家価格で取引されている。従って農家手取額は1箱CR\$4380である。即ち、近郊養鶏農家の手取額1箱当りCR\$548200奥地養鶏農家の手取額1箱当りCR\$438000手取額差CR\$110200となる。

奥地の鶏卵を取扱う業者は、組合関係と大きな取扱い業者が主体であり、近郊は小業者フェイラ販売人が主体である。

(註) 近郊養鶏農家でもこのような有利な価格で販売出来るのは、せいぜい3万羽規模位迄で、それ以上の規模の場合は、生産卵の20%、30%、40%を大口取扱い業者へ販売しなければならないので、2~3万羽規模の養鶏家に比し不利な面がある。

4月10日現在の卸し価格と、農家価格の差は各等級(TIPO)ともダースCR\$70001箱CR\$2100である。これが取扱い業者の販売上の経費とマージンであるが果して妥当なものであるか、どうか疑問である。この差が大きいがためにダンピングや値引き販売が起るのではないかと考えられる。

(3) 卵価の推移 - 1

卵価の1974年から83年迄の過去10ヶ年間の値上り率は大(GRANDE)級で、CR\$3.60がCR\$145.00にその差CR\$141.40で39277%の値上り、1978年から83年迄の過去5ヶ年間の値上り率は、CR\$8.00からCR\$145.00にその差CR\$137.00で1711.2%の

値上りであった。

これに対し飼料価格は、1974年から83年迄の過去10年間で飼料1k当りCR\$0.82からCR\$58.00にその差57.18で697.3%の値上り、1978年から83年迄の過去5年間でCR\$240からCR\$5800にその差55.60で231.6%の値上りであった。卵価の値上りは、飼料価格の値上りに比較して如何に低いか理解される。

表-6は、農家の庭先渡し卵価(以下「農家価格」という。)の推移を見たものである。

(表-6) 農家庭先渡し卵価(1ダース当り)の推移
(イタベチ産業組合資料引用)

調査年月日	市場 等級区分	サンパウロ		リオデジャネイロ	
		特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)
1974年 4月 27日		Cr\$ 370	Cr\$ 360	Cr\$ 365	Cr\$ 355
5 8		Cr\$ 370	Cr\$ 360	Cr\$ 370	Cr\$ 360
5 19		Cr\$ 370	Cr\$ 360	Cr\$ 350	Cr\$ 340
5 26		Cr\$ 310	Cr\$ 290	Cr\$ 310	Cr\$ 290
6 28		Cr\$ 330	Cr\$ 320	Cr\$ 310	Cr\$ 290
6 29		Cr\$ 330	Cr\$ 320	Cr\$ 330	Cr\$ 320
8 9		Cr\$ 330	Cr\$ 320	Cr\$ 300	Cr\$ 290
8 23		Cr\$ 300	Cr\$ 290	Cr\$ 270	Cr\$ 260
8 30		Cr\$ 300	Cr\$ 290	Cr\$ 270	Cr\$ 260
9 5		Cr\$ 270	Cr\$ 260	Cr\$ 260	Cr\$ 250
9 28		Cr\$ 280	Cr\$ 260	Cr\$ 240	Cr\$ 230
10 1		Cr\$ 280	Cr\$ 260	Cr\$ 260	Cr\$ 250
10 26		Cr\$ 270	Cr\$ 240	Cr\$ 240	Cr\$ 210
10 12		Cr\$ 270	Cr\$ 240	Cr\$ 260	Cr\$ 250
11 8		Cr\$ 220	Cr\$ 200	Cr\$ 240	Cr\$ 210
11 21		Cr\$ 220	Cr\$ 200	Cr\$ 220	Cr\$ 200
12 12		Cr\$ 280	Cr\$ 250	Cr\$ 280	Cr\$ 250
12 14		Cr\$ 310	Cr\$ 290	Cr\$ 320	Cr\$ 300
12 18		Cr\$ 360	Cr\$ 340	Cr\$ 380	Cr\$ 360
1975年 1月 7日		Cr\$ 330	Cr\$ 310	Cr\$ 350	Cr\$ 330
1 11		Cr\$ 280	Cr\$ 260	Cr\$ 270	Cr\$ 250
1 21		Cr\$ 250	Cr\$ 230	Cr\$ 270	Cr\$ 250

調査年月日	市場 等級区分	サンパウロ		リオデジャネイロ	
		特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)
1975年 1月 28日		Cr\$ 330	Cr\$ 310	Cr\$ 330	Cr\$ 310
2 14		" 300	" 270	" 250	" 230
2 18		" 300	" 270	" 300	" 270
2 24		" 320	" 290	" 320	" 290
3 3		" 350	" 320	" 340	" 320
3 11		" 380	" 350	" 380	" 350
4 9		" 380	" 350	" 350	" 320
4 23		" 380	" 350	" 370	" 350
4 29		" 380	" 360	" 370	" 350
5 3		" 380	" 360	" 380	" 360
5 10		" 380	" 360	" 380	" 370
5 20		" 380	" 360	" 360	" 350
5 23		" 390	" 380	" 360	" 350
5 28		" 390	" 380	" 390	" 380
5 29		" 380	" 360	" 390	" 380
7 12		" 350	" 340	" 360	" 350
7 16		" 350	" 340	" 350	" 340
8 8		" 370	" 350	" 350	" 340
8 14		" 370	" 350	" 370	" 350
8 19		" 390	" 360	" 370	" 350
8 22		" 390	" 360	" 390	" 370
9 2		" 340	" 310	" 370	" 350
9 3		" 340	" 310	" 330	" 300
9 10		" 340	" 310	" 300	" 270
9 17		" 300	" 270	" 300	" 270
9 27		" 300	" 270	" 300	" 280
10 2		" 300	" 270	" 320	" 300
10 7		" 340	" 310	" 320	" 300
10 9		" 340	" 310	" 350	" 320
10 13		" 380	" 360	" 390	" 360
10 28		" 410	" 380	" 410	" 390

市場 等級区分 調査年月日	サンパウロ		リオデジャネイロ	
	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)
1975年11月12日	Cr\$ 410	Cr\$ 380	Cr\$ 420	Cr\$ 400
11 19	" 420	" 400	" 420	" 400
1976年1月15日	" 370	" 340	" 370	" 330
1 19	" 370	" 340	" 350	" 320
1 24	" 350	" 320	" 350	" 320
2 9	" 400	" 370	" 370	" 340
2 13	" 440	" 420	" 420	" 390
2 18	" 480	" 460	" 460	" 440
2 21	" 510	" 490	" 520	" 500
3 9	" 550	" 530	" 560	" 540
3 16	" 590	" 570	" 590	" 570
3 26	" 590	" 570	" 620	" 600
4 13	" 550	" 530	" 560	" 540
4 26	" 490	" 470	" 500	" 480
5 7	" 490	" 470	" 450	" 430
6 5	" 530	" 510	" 530	" 510
6 7	" 530	" 510	" 530	" 510
7 1	" 550	" 530	" 550	" 530
7 9	" 570	" 550	" 570	" 550
7 16	" 600	" 580	" 600	" 580
7 30	" 620	" 600	" 620	" 600
8 24	" 600	" 580	" 560	" 540
8 31	" 550	" 530	" 560	" 540
9 14	" 500	" 460	" 500	" 460
9 18	" 500	" 460	" 460	" 410
9 22	" 460	" 410	" 460	" 410
9 28	" 480	" 440	" 480	" 440
10 11	" 570	" 520	" 580	" 530
10 6	" 520	" 480	" 520	" 480
10 28	" 570	" 520	" 530	" 490

市場 等級区分 調査年月日	サンパウロ		リオデジャネイロ	
	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)
1976年 11月 11日	Cr\$ 5.10	Cr\$ 4.60	Cr\$ 5.00	Cr\$ 4.30
12 2	" 5.30	" 4.60	" 5.00	" 4.30
12 4	" 5.30	" 4.60	" 5.40	" 4.50
12 9	" 5.30	" 4.60	" 5.40	" 4.60
12 27	" 5.30	" 4.60	" 5.60	" 4.80
12 30	" 5.30	" 4.60	" 5.60	" 4.80
1977年 1月 14日	" 5.40	" 4.80	" 5.60	" 4.80
2 3	" 5.50	" 5.00	" 5.60	" 4.80
2 8	" 5.50	" 5.00	" 5.80	" 5.20
2 10	" 6.00	" 5.50	" 5.80	" 5.20
2 11	" 6.00	" 5.50	" 6.00	" 5.50
3 1	" 6.50	" 6.00	" 6.00	" 5.50
3 2	" 6.50	" 6.00	" 6.50	" 6.00
3 10	" 7.00	" 6.70	" 7.00	" 6.70
4 21	" 7.30	" 7.10	" 7.00	" 6.70
4 28	" 7.30	" 7.10	" 7.30	" 7.10
5 6	" 7.00	" 6.80	" 7.00	" 6.80
5 10	" 7.00	" 6.70	" 7.00	" 6.00
7 2	" 7.30	" 7.10	" 7.30	" 7.10
7 27	" 7.30	" 7.10	" 7.30	" 6.50
8 2	" 7.10	" 6.80	" 6.80	" 6.50
8 7	" 7.10	" 6.40	" 6.70	" 5.70
8 9	" 6.80	" 6.50	" 6.80	" 6.00
10 27	" 7.60	" 6.70	" 6.90	" 5.90
10 29	" 7.60	" 6.70	" 7.40	" 6.40
11 28	" 8.40	" 7.60	" 8.40	" 7.60
1978年 1月 17日	" 8.40	" 8.00	" 8.40	" 7.60
1 18	" 8.40	" 8.00	" 8.40	" 8.00
2 16	" 8.40	" 7.80	" 8.40	" 7.70
2 8	" 9.40	" 8.40	" 9.20	" 7.70

市場 等級区分 調査年月日	サンパウロ		リオデジャネイロ	
	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)
1978年 3月10日	Cr\$ 940	Cr\$ 840	Cr\$ 950	Cr\$ 820
3 18	" 980	" 880	" 940	" 840
5 17	" 1000	" 930	" 950	" 900
6 16	" 1000	" 960	" 950	" 900
6 20	" 1000	" 960	" 990	" 950
7 5	" 1030	" 1000	" 1040	" 1010
8 15	" 1030	" 1000	" 1040	" 990
8 23	" 1050	" 1000	" 1040	" 990
9 13	" 1000	" 940	" 940	" 890
9 27	" 910	" 860	" 940	" 890
10 18	" 910	" 810	" 880	" 780
11 29	" 900	" 880	" 970	" 840
1979年 1月19日	" 1000	" 870	" 1000	" 870
3 3	" 1220	" 1180	" 1110	" 1070
3 4	" 1220	" 1180	" 1230	" 1190
3 8	" 1300	" 1240	" 1230	" 1190
3 12	" 1300	" 1240	" 1300	" 1240
2 1	" 1050	" 1000	" 1000	" 870
2 14	" 1100	" 1060	" 1110	" 1070
4 26	" 1150	" 1040	" 1150	" 1040
6 6	" 1250	" 1150	" 1150	" 1040
6 27	" 1300	" 1230	" 1300	" 1230
7 25	" 1340	" 1300	" 1300	" 1230
8 1	" 1440	" 1400	" 1300	" 1230
8 15	" 1500	" 1450	" 1550	" 1450
9 12	" 1380	" 1280	" 1380	" 1230
10 2	" 1530	" 1430	" 1530	" 1430
10 10	" 1530	" 1430	" 1450	" 1350
10 23	" 1660	" 1510	" 1500	" 1400
	" 1660	" 1510	" 1660	" 1500
12 1	" 1770	" 1600	" 1770	" 1770

市場 等級区分 調査年月日	サンパウロ		リオデジャネイロ	
	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)
1980年 1月 9日	Cr\$ 14.70	Cr\$ 13.00	Cr\$ 14.70	Cr\$ 13.20
2 13	" 22.30	" 21.60	" 22.60	" 21.60
3 11	" 22.30	" 21.60	" 22.60	" 21.60
4 29	" 22.30	" 21.60	" 22.40	" 19.40
5 21	" 22.30	" 21.60	" 22.90	" 21.90
6 4	" 18.30	" 17.60	" 18.90	" 17.90
6 25	" 20.30	" 18.60	" 21.40	" 18.90
7 9	" 23.00	" 22.00	" 23.90	" 21.90
8 13	" 23.00	" 22.00	" 19.00	" 17.00
8 29	" 22.00	" 20.00	" 16.00	" 14.00
9 30	" 25.00	" 23.00	" 27.00	" 25.00
10 1	" 27.50	" 25.50	" 27.00	" 25.00
10 21	" 29.00	" 27.00	" 27.00	" 25.00
11 20	" 30.00	" 27.50	" 29.00	" 27.00
12 2	" 33.00	" 30.00	" 33.00	" 29.00
1981年 1月 29日	" 36.00	" 33.00	" 33.00	" 29.00
1 31	" 36.00	" 33.00	" 38.00	" 33.00
2 5	" 39.00	" 36.00	" 38.00	" 33.00
2 16	" 42.00	" 39.00	" 41.00	" 37.00
3 12	" 46.00	" 44.00	" 48.00	" 45.00
4 27	" 42.00	" 40.00	" 48.00	" 45.00
4 28	" 42.00	" 40.00	" 42.00	" 39.00
5 12	" 38.00	" 36.00	" 42.00	" 39.00
5 14	" 38.00	" 36.00	" 38.00	" 35.00
5 26	" 36.00	" 34.00	" 33.00	" 30.00
6 8	" 38.00	" 36.00	" 33.00	" 30.00
6 23	" 43.00	" 41.00	" 40.00	" 37.00
6 15	" 41.00	" 39.00	" 33.00	" 30.00
8 18	" 48.00	" 46.00	" 48.00	" 46.00
9 22	" 48.00	" 45.00	" 48.00	" 46.00

市場 等級区分 調査年月日	サンパウロ		リオデジャネイロ	
	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)
1981年 9月 24日	Cr\$ 44.00	Cr\$ 41.00	Cr\$ 42.00	Cr\$ 39.00
10 5	" 48.00	" 44.00	" 42.00	" 39.00
10 7	" 48.00	" 44.00	" 48.00	" 44.00
10 26	" 52.00	" 49.00	" 48.00	" 44.00
11 9	" 56.00	" 54.00	" 52.00	" 49.00
11 27	" 56.00	" 54.00	" 53.00	" 50.00
12 23	" 56.00	" 52.00	" 56.00	" 52.00
1982年 1月 18日	" 60.00	" 56.00	" 56.00	" 56.00
1 21	" 60.00	" 56.00	" 62.00	" 58.00
1 29	" 64.00	" 60.00	" 67.00	" 62.00
2 4	" 70.00	" 66.00	" 70.00	" 65.00
2 18	" 73.00	" 69.00	" 74.00	" 70.00
3 1	" 77.00	" 73.00	" 78.00	" 74.00
3 5	" 85.00	" 81.00	" 85.00	" 81.00
3 10	" 93.00	" 89.00	" 94.00	" 90.00
4 17	" 83.00	" 79.00	" 78.00	" 74.00
5 4	" 71.00	" 67.00	" 68.00	" 64.00
5 12	" 78.00	" 73.00	" 77.00	" 72.00
6 7	" 82.00	" 77.00	" 81.00	" 77.00
6 23	" 74.00	" 70.00	" 71.00	" 67.00
7 21	" 81.00	" 76.00	" 80.00	" 75.00
8 3	" 87.00	" 82.00	" 82.00	" 78.00
8 9	" 90.00	" 85.00	" 89.00	" 85.00
9 8	" 75.00	" 70.00	" 71.00	" 66.00
9 20	" 75.00	" 68.00	" 61.00	" 56.00
9 28	" 65.00	" 58.00	" 61.00	" 56.00
10 20	" 65.00	" 58.00	" 66.00	" 61.00
10 26	" 71.00	" 64.00	" 69.00	" 64.00
11 26	" 69.00	" 59.00	" 59.00	" 51.00
12 9	" 81.00	" 69.00	" 77.00	" 65.00

調査年月日	市場	サンパウロ		リオデジャネイロ	
	等級区分	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)	特大 (Tipo Extra)	大 (Tipo Grande)
1982年12月17日		Cr\$ 90.00	Cr\$ 78.00	Cr\$ 90.00	Cr\$ 78.00
1983年1月6日		" 99.00	" 89.00	" 99.00	" 89.00
	2 18	" 112.00	" 112.00	" 102.00	" 103.00
	3 2	" 122.00	" 112.00	" 122.00	" 112.00
	3 8	" 137.00	" 124.00	" 136.00	" 123.00
	3 15	" 149.00	" 136.00	" 148.00	" 135.00
	3 23	" 149.00	" 136.00	" 160.00	" 147.00
	4 5	" 156.00	" 145.00	" 145.00	" 147.00

(4) 卵価の推移 - 2

等級大 (Tipo GRANDE) の卵価について

1977年から1983年の過去5カ年間の農家価格と卸し価格は表-7の通りであるが、その差を見ると次のようになっており、年毎に差が大きくなっていることがわかる。

(単位: CR\$ 比率%)

年度	時期	差額 (CR\$)	同差額 / 農家価格比率 (%)
1977年	年初	0.90	18.75
	年末	1.50	19.73
1978年	年初	1.60	20.00
	年末	2.80	33.73
1979年	年初	2.80	32.18
	年末	5.40	33.75
1980年	年初	5.40	41.53
	年末	8.00	26.66
1981年	年初	11.00	33.33
	年末	21.00	40.38
1982年	年初	24.00	42.85
	年末	46.00	58.97
1983年	年初	51.00	57.30
	年末	70.00	48.27

(註) 本表は1ダース当りについて見たものである。

また等級が小型になるに従ってこの差の比率が大となっている。

(単位：価格 = CR\$, 比率 = %)

等級区分	農家価格(A)	卸し価格(B)	差額 (B)-(A)=(C)	B/A×100
(Ext)	156	226	70	44.87
(Gra)	145	215	70	48.27
(Med)	136	206	70	51.47
(Peq)	118	188	70	99.32
(Ind)	99	169	70	70.70

(註) 本表は1ダース当りについて見たものである。

要するに農家の手取額は等級別に見た場合、卸し価格の特大 (EXT) が 5513 %、大 (GRA) 5173 %、中 (MED) 4853 %、小 (PEQ) 40.68 %、極小 (IND) 29.30 % と夫々なっている。

(表-7) 鶏卵1ダース当り農家庭先き渡し卸価格の比較

(単位：CR\$)

調査年月日	区分	農家庭先価格	卸し価格
1977年 1月 14日		Cr\$ 4.80	Cr\$ 5.70
	2 3	" 5.00	" 5.90
	2 11	" 5.50	" 6.40
	3 1	" 6.00	" 6.90
	3 10	" 6.70	" 7.60
	4 21	" 7.10	" 8.00
	5 6	" 6.80	" 7.70
	5 10	" 6.70	" 8.10
	7 2	" 7.10	" 8.50
	8 2	" 6.80	" 8.20
	8 9	" 6.50	" 7.90
	10 27	" 6.70	" 8.10
	11 9	" 7.60	" 9.10
1978年 1月 17日		" 8.00	" 9.60
	2 4	" 7.80	" 9.40
	3 10	" 8.40	" 10.10
	3 18	" 8.80	" 10.50

(单位：CR\$)

調査年月日	区 分	農家庭先価格	卸 し 価 格
1978年 4月 12日		Cr\$ 930	Cr\$ 1100
6 16		" 960	" 1150
7 5		" 1000	" 1190
9 13		" 940	" 1160
9 27		" 860	" 1090
10 18		" 810	" 1040
11 29		" 830	" 1110
1979年 1月 24日		" 870	" 1150
3 3		" 1180	" 1480
3 9		" 1240	" 1540
4 26		" 1040	" 1360
6 7		" 1150	" 1470
6 27		" 1230	" 1560
8 1		" 1400	" 1750
8 15		" 1450	" 1800
9 12		" 1280	" 1630
10 2		" 1430	" 1780
10 26		" 1510	" 1880
12 1		" 1600	" 2140
1980年 1月 9日		" 1300	" 1840
2 13		" 2160	" 2290
2 27		" 2160	" 2610
3 11		" 2160	" 2750
5 21		" 2160	" 2860
6 4		" 1760	" 2460
7 9		" 2200	" 2900
11 20		" 2750	" 3550
12 2		" 3000	" 3800
1981年 2月 3日		" 3300	" 4400
2 5		" 3600	" 4700

(单位 : CR\$)

区 分 調査年月日	農家庭先価格	卸 し 価 格
1981 年 3 月 11 日	Cr\$ 44.00	Cr\$ 58.00
4 28	" 40.00	" 54.00
5 14	" 36.00	" 50.00
5 26	" 34.00	" 46.00
6 8	" 36.00	" 50.00
6 16	" 41.00	" 53.00
6 24	" 41.00	" 56.00
8 18	" 46.00	" 63.00
9 25	" 41.00	" 60.00
10 7	" 44.00	" 63.00
10 26	" 49.00	" 69.00
11 9	" 54.00	" 75.00
12 23	" 52.00	" 73.00
1982 年 1 月 13 日	" 56.00	" 80.00
1 29	" 60.00	" 84.00
2 4	" 66.00	" 90.00
2 11	" 69.00	" 93.00
3 2	" 73.00	" 101.00
3 6	" 81.00	" 109.00
3 11	" 89.00	" 120.00
4 8	" 79.00	" 110.00
5 5	" 67.00	" 98.00
5 12	" 73.00	" 107.00
6 4	" 77.00	" 113.00
6 24	" 70.00	" 106.00
7 22	" 76.00	" 112.00
7 30	" 82.00	" 118.00
8 10	" 85.00	" 125.00
9 9	" 70.00	" 110.00
9 21	" 68.00	" 108.00

(単位 : CR\$)

調査年月日	区 分	農 家 庭 先 価 格	卸 し 価 格
1982 年 9 月 30 日		Cr\$ 5800	Cr\$ 98.00
10 26		" 64.00	" 108.00
11 27		" 59.00	" 103.00
12 10		" 69.00	" 113.00
12 17		" 78.00	" 124.00
1983 年 1 月 7 日		" 89.00	" 140.00
2 18		" 112.00	" 158.00
3 3		" 112.00	" 170.00
3 8		" 124.00	" 184.00
3 16		" 136.00	" 201.00
4 6		" 145.00	" 215.00

生産農家の等級別の鶏卵生産割合を見ると平均的に概ねEXT25%、GRA60%、MED10%、PEQ4.5%、IND0.5%であるが、この場合平均農家手取額は卸し価格の516%程度当ることになっている。

このように見てくると農家の手取価格が販売価格（卸し価格）に対し、如何に割安であるか判明できよう。

(5) 農家の手取り価格と小売り価格の差比率

消費者の小売価格は地域又はスーパー、フェイラ（露天市場）鶏肉、鶏卵、専門店、パレジョン（生産者による直接販売小売り市場）、食品店によって異なるが、パレジョンの場合は卸し価格が1番安くて2~8%高となっており、次いで専門店10~15%高、フェイラ10~20%高、スーパー15~20%~25%高と夫々なっている。スーパーはイゾボール（発泡スチロール）容器入れ1ダース（白）当り特大（EXT）CR\$289、大（GRA）CR\$276をもって夫々販売しているが、イゾボール容器がダース当CR\$25.00につくので割高となっている。

農家価格1ダースCR\$145の大型（TIPO GRANDE）で、スーパーの小売り価格が、ダースCR\$276とした場合、その差はCR\$131で農家手取額の9034%高となり、イゾボール容器費CR\$25を差引いた卵だけを見てもCR\$106の差があり7310%高となっている。

7. 飼料事情

(1) 現 状

ブラジルの養鶏用飼料事情は幸いその999%が自国内生産物で自給しており、アミノ酸類、ビタミン剤、病気予防薬等の微量要素のみを輸入によってまかなわれている。

飼料原料の主なるものは、

- 1 トーモロコシ Milho
- 2 大豆粕 Farinha de Soja
- 3 骨肉粉 Farinha de Carne
- 4 フスマ Farelo de Trigo
- 5 棉実粕 Farelo de Algodão
- 6 魚粉 Farinha de Peixe
- 7 血粉 Farinha de Sangue
- 8 日まわり粕 Farelo de Girasol
- 9 落花生粕 Farinha de Amendoim
- 10 米ぬか Farelo de Arroz
- 11 トーモロコシ副産物
- 12 カイガラ Ostra
- 13 炭酸石炭 Calcario
- 14 骨粉 Farinha de Osso
- 15 その他

であるが諸外国で使用しているアルファルハーミールは使用されていない。

1983年度に於けるブラジル採卵鶏用飼料の推定需要量は

成 鶏 羽 数	5,500 万羽平均として	203 万 5,000 トン
育 成 羽 数	4,000 万羽として	32 万 0,000 トン
種 鶏 用 (肉用種鶏, 採卵用種鶏の合計)		
成 鶏 羽 数	1,180 万羽平均として	53 万 0,000 トン
育 成 羽 数	950 万羽として	9 万 5,000 トン

計 298 万トン程度がある。

(註) 今年のプロイラー生産羽数を 12 億羽と見積り、1羽 4.5 k の消費量とした場合、その総必要量は 540 万トンとなる。従って今年度の採卵、肉用鶏の総必要量は 840 万トン程度と推定出来る。

主要な飼料原料、トーモロコシ、大豆粕、肉粉、フスマ、炭カル、カイガラ、等の必要量も推定する(常識的な飼料配合率から見て)

採卵鶏用 300 万トン プロイラー用 540 万トン

1.	トーモロコシ	60 % = 180 万トン	67 % = 361 万 8,000 トン
2.	大豆粕	18 % = 54 万トン	23 % = 124 万 2,000 トン
3.	肉粉	7 % = 21 万トン	8 % = 43 万 2,000 トン
4.	フスマ	7 % = 21 万トン	
5.	炭カル, カイガラ	7 % = 21 万トン	
6.	魚粉		2 % = 10 万 8,000 トン
合計	1. トーモロコシ	541 万 8,000 トン	
	2. 大豆粕	178 万 2,000 トン	
	3. 肉粉	64 万 2,000 トン	
	4. フスマ	21 万トン	
	5. 炭カル, カイガラ	21 万トン	

程度と予想される。

トーモロコシにおいては今年度（1982～83 農年度）収穫予想 2,400～2,450 万トンから見ると、養鶏関係は其中、22.5 % 程度を必要とする。

大豆粕においては、大豆粒換算で 254,5000 トンが必要と推定され、これは大豆収穫予想 1,450 万トンから見ると、17.5 % 程度に当るものである。

(2) 飼料供給形態

ブラジルにおける飼料の供給形態は大別すると次の 3 形態である。

- A 飼料メーカーの作ったものと、そのメーカーの特約販売店を通じ又は、メーカーから直接購入
- B 組合関係の各生産地内に有る飼料工場から購入
- C 養鶏農家が独自で飼料原料を購入し、自家配合をする。また飼料そのものの形態は次の 3 形態に大別される。
 - a 飼料メーカー、又は組合工場が作った完全配合飼料を購入使用
 - b 飼料メーカー、又は組合工場が作った濃縮飼料を購入し、これに、トーモロコシ、フスマ、カイガラ、炭酸カルシウム等を混合し、完全配合飼料を作り使用する。
(濃縮飼料としては、25 % 混合用及び 40 % 混合用が多い)
 - c 自家配合施設で完全配合飼料を作り使用する。

現在は地域によって差が有るも概ね 5 万羽以上の規模の養鶏家の場合は、そのほとんどが自家配合であり、2 万から 5 万羽の中規模養鶏家の場合も自家配合の指向が強いが現在は濃縮飼料（コンセントラード）使用が多い。完全配合飼料を使用しているのは、組合傘下の養鶏家と都市近郊の小規模養鶏である。

飼料の価格の面から見た場合（同一地域での）一番安価なのは、自家配合飼料次いで濃縮飼料でありメーカーの完全配合飼料が一番割高となっている。

4月10日現在に於けるサンパウロ市近郊の採卵用飼料価格、含有蛋白17%もの場合は、次のようになっている。

- イ 飼料メーカーの完全配合飼料 K当り CR\$ 65 ~ 68.00
- ロ 濃縮飼料から作った完全配合飼料 K当り CR\$ 60 ~ 65.00
- ハ 自家配合による完全配合飼料 K当り CR\$ 55 ~ 60.00

以上のように、それぞれK当りCR\$5.00位の差がある。

またメーカー品と同一価格の飼料を作った場合、自家配合飼料の方が品質の高い物ができる。これはメーカーの製造コスト高と、流通面のコストが高いせいであろう。

ブラジルには1960年代後半から世界最大級の飼料メーカーの企画進出があり、当時は最新の工場設備と販売組織で大量販売に乗り出し、大きな成果を上げていたが、ここ3ヶ年程前からブラジルの高率インフレ、養鶏、不況による飼育羽数の減少自家配合の増加により、販売量が大幅に減少し、経営難におち入っているうわさを聴く、各メーカー間では激烈な販売合戦が行われており、近頃は有名メーカーの飼料であつても安かろう、悪かろう式の品質の劣る飼料が販売されているという現象が出ており有名メーカーだからというだけでは安心して使用し得なくなつて来ている。

(3) 飼料価格の推移-1

今年のブラジルの飼料価格は、国内全般のインフレ高進の影響とクルゼイロの大巾切下げの影響で、急速な値上がりが続いている。

サンパウロ市近郊における一飼料メーカーの完全配合飼料(成鶏用)の値上り率を見ると

1982年	12月15日	K当り	CR\$	48.35
83年	1月6日	"	"	50.70
	2月7日	"	"	57.45
	3月7日	"	"	61.47
	3月28日	"	"	65.77

と3ヶ月間にCR\$17.42 36%の値上を示しているが4月はずっと高率の値上りをしている。

これは主に飼料原料中の特に大豆粕、肉粉及び輸入品であるメチオニン、ビタミン剤、予防薬品類の大巾値上げによるものである。

主原料のトーマロコシは値上り率は少なかった。

(4) 飼料価格の推移-2

ブラジルの飼料価格の推移は表-8のとおりであり、如何に高率な値上りを示している

かが判る。1974年から1983年4月迄の10ヶ年間で、6.272% 62.7倍、1978年から1983年迄の5ヶ年間で1.000%、10倍の値上りを示したが表10-1を見ればブラジルのインフレが如何に高率に推移したかが、及び表10-2では伯国貨の為替下落が急速であったかがわかるとおり、これらの影響が最大の原因になっているものと考察される。

(表-8) 過去10カ年間の飼料価格の推移(完全配合飼料1kg当り価格)

(単位:CR\$)

調査年月日	価 格	調査年月日	価 格	調査年月日	価 格
<u>1974</u>		<u>1978</u>		8 25	12.00
1 4	0.82	1 25	2.40	9 25	12.60
4 1	0.88	3 3	2.56	10 13	13.60
8 1	0.96	3 23	2.74	10 21	14.00
10 12	1.00	10 4	3.00	11 11	15.00
11 1	1.16	5 9	3.30	12 29	17.00
12 16	1.22	6 20	3.50	<u>1981</u>	
<u>1975</u>		11 1	4.10	3 16	13.00
3 24	1.18	<u>1979</u>		6 1	10.00
4 28	1.16	1 10	4.20	6 10	14.00
8 1	1.24	2 20	3.70	9 1	15.00
9 1	1.34	3 12	3.70	10 1	18.00
12 10	1.40	3 20	4.00	1 12	22.00
<u>1976</u>		5 20	4.30	<u>1982</u>	
4 1	1.44	7 10	4.80	1 1	24.00
5 3	1.38	7 22	5.10	3 1	24.00
5 5	1.38	8 15	5.50	6 1	25.00
6 1	1.48	9 10	6.10	9 1	29.00
6 12	1.60	9 21	6.40	12 1	47.00
7 26	1.78	11 7	6.80	<u>1983</u>	
9 17	1.84	12 10	7.10	1 1	47.00
<u>1977</u>		<u>1980</u>		2 1	50.00
1 10	1.94	1 15	7.70	3 1	52.00
6 6	2.00	6 2	8.60	4 1	54.00
6 7	2.02	6 20	9.40	4 10	58.00
12 10	2.32	7 28	11.00		

(註)本表はイタベチ産業組合資料を引用

(表-9) 飼料販売数量の推移

(単位：販売数量 = ton 率 = %)

年 度	飼料メーカーによる販売		組合及び自家配合による販売		合 計	
	販売数量 (A)	比 率	販売数量 (B)	比 率	販売数量 (A+B=C)	伸 び 率
1971	2,771,507	83.34	554,000	16.66	3,325,507	
1972	3,214,384	83.33	642,876	16.66	3,857,260	+ 15.99
1973	4,017,580	83.33	803,516	16.66	4,821,096	+ 24.98
1974	5,223,374	83.33	1,044,675	16.66	6,268,049	+ 30.01
1975	5,735,739	83.33	1,147,148	16.66	6,882,887	+ 9.80
1976	6,634,096	83.33	1,326,800	16.66	7,960,896	+ 15.66
1977	7,771,364	83.33	1,554,272	16.66	9,325,636	+ 17.14
1978	8,826,365	82.00	1,937,494	17.99	10,763,859	+ 15.42
1979	10,563,714	78.50	2,893,246	21.49	13,456,960	+ 25.01
1980	11,156,999	71.99	4,338,835	28.00	15,495,834	+ 15.15
1981	9,568,700	66.99	4,712,942	33.00	14,281,642	- 7.83

- (註) 1. 飼料メーカーによる販売欄の比率 = $\frac{A}{C} \times 100$ 組合及び自家配合による販売欄の比率 = $\frac{B}{C} \times 100$ をもって算出
2. 合計欄の伸び率は、対前年度比を $(\frac{\text{当該年度販売数量} - \text{前年度販売数量}}{\text{当該年度販売数量}}) \times 100$ をもって算出表示した。

(表10-1) インフレの推移

国際協力事業団サンパウロ支部農業情報室資料

総物価指数 (1977年の平均を100とする)

偏 差%

月/年	指数	月	年度累計	12ヶ月間
Dez 70	201	-	193	193
Dez 71	24.0	-	19.5	19.5
Dez 72	27.8	-	15.8	15.8
Dez 73	32.1	-	15.5	15.5
Dez 74	43.2	-	34.6	34.6
Dez 75	55.9	-	29.4	29.4
Dez 76	81.7	-	46.2	46.2

月/年	指数	月	年度累計	12ヶ月間
Dez 77	1134	-	388	388
Dez 78	1597	-	408	408
Dez 79	2830	7. 3	77.2	77.2
Dez 80	5950	5 9	110.3	110.3
Jan 81	6340	6 6	66	110.9
Fev 81	687.8	8 5	156	119.5
Mar 81	7384	7. 4	241	121.1
Abr 81	778.8	5 5	30.9	120.6
Mai 81	827.1	6. 2	39.0	120.3
Jun 81	864.0	4. 5	45.2	117.4
Jul 81	907.9	5 1	52.6	110.6
Ago 81	969.0	6. 7	62.9	110.2
Set 81	1,018.1	5 1	71.1	109.8
Out 81	1,062.4	4 4	78.6	103.4
Nov 81	1,118.8	5 3	87.9	99.0
Dez 81	1,161.3	3 8	95.1	95.1
Jan 82	1,234.3	6 3	63	94.6
Fev 82	1,318.9	6 8	13.6	91.8
Mar 82	1,414.2	7. 2	21.8	91.5
Abr 82	1,490.0	5. 4	28.3	91.3
Mai 82	1,581.2	6 1	36.2	91.2
Jun 82	1,707.5	8 0	47.0	97.6
Jul 82	1,811.0	6 1	55.9	99.5
Ago 82	1,916.0	5 8	65.0	97.7
Set 82	1,986.1	3 7	71.0	95.1
Out 82	2,081.1	4 8	79.2	95.9
Nov 82	2,185.2	5 0	88.2	95.3
Dez 82	2,319.4	6 1	99.7	99.7
Jan 83	2,529.2	9 0	9.0	104.9
Fev 83	2,694.1	6 5	16.2	104.3
Mar 83	2,965.8	10 1	27.9	109.7
Abr 83	3,238.6	9 2	36.6	117.4
Mai 83	3,455.7	6 7	49.0	118.6
Jun 83	3,880.1	12 3	67.3	127.2

(表10-2) クルセイロの対米ドル・レート推移

国際協力事業団サンパウロ支部農業情報室資料

CR\$ / US\$

(月末時における中銀決定売ルート)

偏差%

月/年	価 格 (1ドル当りのクルセイロ価)	月	年度累計	12ヶ月間
Dez 70	4950	-	-	138
Dez 71	5635	-	-	138
Dez 72	6215	-	-	10.3
Dez 73	6220	-	-	0.1
Dez 74	7435	-	-	19.5
Dez 75	9070	-	-	22.0
Dez 76	12345	-	-	36.1
Dez 77	16050	-	-	30.0
Dez 78	20920	-	-	30.3
Dez 79	4253	-	-	103.3
Dez 80	6550	-	-	54.0
Jan 81	6844	4.5	4.5	55.9
Fev 81	7187	5.0	9.7	58.6
Mar 81	7653	6.5	16.8	63.5
Abr 81	8135	6.3	24.2	65.8
May 81	8623	6.0	31.7	69.7
Jun 81	9140	6.0	39.5	74.7
Jul 81	9686	6.0	47.9	79.8
Ago 81	10269	6.0	56.8	83.9
Set 81	10864	5.8	65.9	88.6
Out 81	11483	5.7	75.3	89.2
Nov 81	12114	5.5	84.9	94.9
Dez 81	12780	5.5	95.1	95.1
Jan 82	13444	5.2	5.2	96.4
Fev 82	14115	5.0	10.4	96.4
Mar 82	14821	5.0	16.0	92.7
Abr 82	15561	5.0	21.8	91.3
May 82	16417	5.5	28.5	90.4

偏差%

月/年	価格 (1ドル当りのクルセイロ価)	月	年度累計	12ヶ月間
Jun 82	173.19	55	356	895
Jul 82	182.71	55	430	88.6
Ago 82	193.67	6.0	51.6	88.6
Set 82	207.23	7.0	62.2	90.7
Out 82	221.73	7.0	73.5	93.1
Nov 82	237.25	7.0	85.7	95.9
Dez 82	252.67	6.5	97.7	97.7
Jan 83	275.28	8.95	8.95	104.8
Fev 83	381.44	38.56	50.96	170.2
Mar 83	417.54	9.46	65.25	181.7
Abr 83	454.93	8.95	80.05	192.3
Mai 83	493.61	8.50	95.36	200.7
Jun 83	542.97	10.0	114.9	213.5

1981年度のブラジル飼料シンジケートに資料を提出している会社メーカー数は114企業であるが実際には120以上とのこと。

採卵用の飼料メーカーとして名の通っているのは

- アンダーソンクライトン (Anderson Clayton)
- カルジール (Cargill)
- セントラルソーヤ (Central Soya)
- ブリナー (Purina)
- コンチネンタル (Continental)

等の北米企業及び

- コチア産業組合
- 南伯農協組合
- ヅットラ (Dutra)
- アニャングーラ (Anhangueira)
- ソシール (Socil)
- サジア (Sadra)
- グアビー (Guabi)
- ラッパ (Lapa)
- プリモール (Primar)

ジュニビッタ (Junivita)

フルミネンセ (Fluminense)

等のナショナル資本系の会社がある。

(5) 飼料販売数量の推移

飼料シンジケートの資料 1971 年から 1981 年迄の 11 ケ年間によれば、1971 年から 80 年の 10 ケ年間の飼料供給数量の増加量は 12,170,327 トンで 3659 % の増加を示している。即ち年間平均 20 % 程度の増加率である。又 1977 年から 81 年の 5 ケ年間に於いても 53.1 % の増加を示し、伸び率が縮小したとはいえ、年間平均 10 % の増加率である。(前述の表 9 参照)

80 から 81 年にかけては減少の傾向を示し 7.83 % 減となっている。81 年から 82 年も飼育羽数の減少に伴って横バイか又は減少しているものと推定される。

表 - 11 完全配合飼料及び濃厚飼料の生産比較表

(単位：トン)

飼料区分 種類	完全配合飼料 (A)	濃厚飼料(B)	稀薄濃度 (B/C×100)	濃厚飼料の完全配 合飼料換算(C)	合計 (A)+(C)	
鶏 用	1977	1,261,877	302,100	28	1,078,928	2,340,805
	1978	1,538,429	307,529	28	1,098,317	2,636,746
	1979	1,744,827	404,634	28	1,445,121	3,189,948
	1980	2,282,083	492,975	33	1,493,863	3,775,946
	1977	624,656	297,643	28	1,063,010	1,687,666
	1978	790,517	314,896	28	1,124,629	1,915,146
	1979	818,627	352,413	28	1,258,617	2,077,244
	1980	894,450	360,589	25	1,422,356	2,336,806
牛 用	1977	446,269	33,049	15	220,327	666,596
	1978	593,211	30,523	15	203,487	796,698
	1979	599,483	42,755	15	285,033	884,516
	1980	649,222	35,871	15	239,140	888,362
豚 用	1977	244,446	223,485	15	1,489,900	1,734,346
	1978	526,120	254,287	15	1,695,246	2,221,366
	1979	751,720	320,942	15	2,139,613	2,891,333
	1980	892,616	400,331	20	2,001,655	2,894,271
他の家畜用	1977	97,750	5,946	15	39,640	137,390
	1978	91,055	2,689	15	17,927	108,982
	1979	115,651	4,761	15	31,740	147,391
	1980	132,114	2,760	20	13,800	145,914
合計	1977	2,674,998	862,223		3,891,805	6,566,803
	1978	3,539,332	909,924		4,139,606	7,678,938
	1979	4,030,308	1,125,505		5,160,124	9,190,432
	1980	4,850,485	1,292,526		5,190,814	10,041,299

註 1. 本表は家畜，家きん用飼料生産業者協会参加業者の飼料生産量を表示したものである。

2. ブラジル国内で生産された家畜家きん用飼料生産量及び生産業者別生産割合は次のとおりであった。

(単位；生産量＝トン，比率＝%)

事項		年度	1977年	1978年	1979年	1980年
国内飼料全生産量			9,325,636 (100)	10,763,859 (100)	13,456,960 (100)	15,495,834
内 訳	飼料生産業者協会参加者生産量	主要業者数	94社	102社	102社	112社
		同上業者生産量(A)	6,566,803 (845)	7,678,938 (87.0)	9,190,432 (87.0)	10,041,299 (90)
		その他業者生産量(B)	1,204,561 (15.5)	1,147,427 (13.0)	1,373,292 (13.0)	1,115,700 (10)
		小計(A+B=C)	7,771,364 (83.4)	8,826,365 (82.0)	10,563,714 (78.5)	11,156,999 (72.0)
		農業協同組合及び協会非加入飼育業者生産量(D)	1,554,272 (16.6)	1,937,494 (18.0)	2,093,246 (21.5)	4,338,835 (28.0)

(備考)

(1) 国内飼料全生産量(家畜，家きん用) = C + D

(2) 本表の()内及び()内数値は比率を示す。

① ()内数値は，国内全生産量を100とし，それに占める割合を協会参加者とその他の生産者に区分して表示したものである。

② ()内数値は，Cを100とし，それに占めるA及びBの割合を夫々表示したものである。

この表の総飼料量の用途別数量の比例は次表のとおりである。

(単位：%)

区分	年度	1977年	1978年	1979年	1980年	1981年
ブロイラー用		28.0	34.3	34.7	37.6	40.4
採卵用		28.0	24.9	22.6	23.7	20.8
計		56.0	59.2	57.3	61.3	61.2
牛用		15.0	10.3	9.6	8.8	9.0
豚用		15.0	28.9	31.4	28.8	28.4
その他		14.0	1.6	1.7	1.1	1.4

ブロイラー飼料は数量，比率ともかなり上昇率を示しているが採卵用飼料は5カ年間に28%の比率から20.8%と減少した。

これは採卵鶏の増殖率が低かったことと，自家配合の増加によるものと推定される。

鶏肉飼料の総販売量は

1980年度 9,499,048 ton

1981年度 8,712,012 ton

で対前年度比で17.2%減、史上初めての減少となった。

(6) 飼料の今後の見通し

(養鶏家にとって卵価と飼料価の動きは収支計算の重要なファクターである。従って軽々しく見通しをたてるべきではないと思うがあえて参考までに、私見を述べてみる。)

今年度(1983年度)収穫のトモロコシは2400万トン、大豆は1450万トンと予想されている。トモロコシは昨年から今年にくり越された在庫が100万トン以上あるとのことで、従って数量的には、なんら心配はないと思われる。大豆も同様である。しかし、外貨獲得に必死になっている政府の方針として、余剰と思われる数量のトモロコシ、大豆粒、大豆粕は輸出されるので、その影響で国内相場は高騰することが予想される。大豆粕は輸出税20%か5%に低減されたので輸出が活発化し、今年1月時点Ton当りCR\$60,000が4月15日現在でCR\$75,000となり、TonCR\$15,000、25%の値上りである。ここ1~2ヶ月の間でCR\$90,000,000になるとの話があるが、それは予想されることである。大豆粕の国際相場はTon当り180~220ドルで動いており200ドルとした場合現在のドル、レートCR\$445.00ではCR\$89,000となる。

トモロコシは現在収穫中で年間で1番価格が安定している時期でもあり、60k1俵産地でCR\$1,900~2,000サンパウロ市近郊でCR\$2,200~2,300と横パイである。しかし、これも輸出された場合国際相場Ton当り120~130ドル、CR\$53,400~CR\$57,850となり、60kg1俵CR\$3,000位に値上りする可能性がある。

動物蛋白源の肉粉は、現在45%物でTon当りCR\$48,000~50,000と割安であるが、大豆粕の値上りに準じて上る可能性がある。

フスマはまだ政府の統制下にあり現在30k1俵CR\$7,140であるが、これも政府の小麦、補助金削減如何によって値上りするであろう。

クルセイロの大巾切下げによって特に高騰したのは輸入品のメチオニン、ビタミン剤である。メチオニンは今年1月期k当りCR\$1,500がクルセイロ貨の大巾切下げ直後にCR\$4,000に暴騰し、それが現在はCR\$3,500~3,800に落ち着いている。

適正価格が5.00ドル程度、CR\$2,300位から見れば異常に高い。

今年8月頃からRHODIA社が国産メチオニンを作り、販売開始する予定なので、これにより5ドル程度に落ち着く可能性があると期待される。

ビタミン剤もクルセイロの切下げ巾にほぼ比例した値上りを示し、飼料1トン分でCR\$1,200~1,500位である。これはドルの切下げ巾に自動的について値上りに比例して上

って行くものと考えられる。

以上の見方からすれば、今後のブラジルの飼料価格は原料不足ということは無いにしても、政府の価格抑制政策がない限り、主原料のトーマロコン、大豆粕、肉粉等は国際相場以上の価格の物を使用せざるを得ないことになろう。

8. ブラジル採卵養鶏界の好況、不況の動向

1973年74年の史上空前の好況以降、1979年末までの6カ年半の間には短期的に赤字期間があったとしても、年間をとおして平均的に見た場合は黒字経営で養鶏家は我が世の春を謳歌した。ブラジル養鶏天国の良き時代であったと云える。

それが1979年来から不況に転じたが、これは長く続いた好況によって規模拡大増羽指向が強くなったことと、50万100万羽規模の不規模企業養鶏の出現によって、急速に生産量が増加し、生産過剰におちいったのが原因である。

この1980年の不況はブラジル養鶏史上最悪かつ潰滅的不況と云われ数多くの養鶏家が破産廃業に追い込まれた。

飼有成鶏羽数も推定6000万羽から5000万羽程度へと、約20%の減少が見られ、鶏卵の需給関係も正常に回復するかに見られていたが、国全体の経済不況により、消費量がのびず、1981年度は収益零か地域によっては多少の利益が出た程度に終り、先行き不安な養鶏家は更に減羽か転廃業を行なった。

この影響で1982年は年初より強気相場に変わり、3月中旬まで7回の値上げが行われ、特大(EXT)級の卸し価格はダースCR\$7700から、CR\$12400とCR\$4700、61%のアップとなった。しかし、あまり急激な値上りのため、消費がともなわず、4月中旬から下げに転じたが、9月中ばまでは、一応好況と云える線が続いた。

しかし乍ら、この8ヶ月間の好況によって、又増羽指向が高まり、82年3月から急速に飼付羽数が増加し、ブラジル全体の適正飼付羽数、月間350万羽を大巾に上回る飼付けが行われた。因みにこの飼付羽数内訳を見ると、

1982年1月期	3284,490羽
2月期	3,070,512 "
3月期	4,343,092 "
4月期	4,394,396 "
5月期	4,070,928 "
6月期	4,244,066 "
7月期	4,565,158 "
8月期	4,803,951 "

9 月期 4,520,834 羽

となっている。

この飼育羽数急増の傾向を見た一部良識家の人達は、3～4月時点から9月以降は不況に再投入するであろうとの予想をたてていたが、それが不幸にして、びつたりと当たり、82年9月から不況に転じ83年2月迄の約6ヶ月間は、80年に経験した史上最悪激減的不況を更に上廻る未曾有の不況におちいったのである。

この不況は過去の不況と異なり、これを打開するための農業融資が受けられないが、受けられても必要資金の50%か60%程度であること、金利は年間60%の高率であること、国全体の経済不況で失業者が増大し、それに伴ない消費の減退、外国輸出が困難、等々極めて厳して状況にあった。

これによって再び自然調整的な羽数削減が行われ現在は適正羽数まで減少したものと推定される。

9. 今後の景気動向の見通し

今年3月以降は不況を乗切った養鶏家にとって待望の好況が訪れた訳であるが、この好況がいつ頃まで続くか問題である。4月の現時点における見通しとしては、

(1) 昨年10月以降は飼育羽数が減少しているため現在は適正羽数を保っている。今後は徐々に僅か乍ら減少して行くことが考えられる。因みに最近の飼育羽数の推移を見てもこれが、うなずけるところである。

82年10月期	3,931,000 羽
11月期	4,008,000 "
12月期	3,300,000 "
83年1月期	3,100,000 "
2月期	3,000,000 "
3月期	3,500,000 "

(2) 農業融資金利が高く、新たな設備投資が困難になって来た。

(3) 諸設備資材の高騰によって鶏舎は1羽分CR\$500以上になり、増設は困難になった。又、初産開始迄の育成費が1羽CR\$900程度になり、現在羽数維持が精一杯である。

(4) 牛肉、魚等の他の副食品に比し、鶏卵はまだ割安である。牛肉中級k当りCR\$800～1,000、魚一番安価な鯖、鰯でKCR\$250～300、ハム(モルタンデラ)腸づめ(リングイッサ)中級品でKCR\$800～1,000であり、鶏卵特大(EXT)ダースCR\$280からCR\$290はまだ割安であることから、無茶な値上げをしない限り現状の消費量は続くと考えられる。

(5) 飼料の値上りは続くと思うがトウモロコシ、大豆等において自然災害等による減収がない限り値上り中はインフレ並に落ち着く可能性が有る。

以上の諸点から、利益中は縮少するかも知れないが、かなりの期間（1～2年位）続くものと思う。

（註）ブラジル採卵養鳩の好、不況の動向を見る資料として表-12 Feed Egg Ratio（Cotia 産組資料）を参考資料までに添付する。

表12 年度別、月別鶏卵、1ダース当り価格（農家手取り）対飼料価格比の推移

年度 月	1976			1977			1978			1979			1980			1981			1982			1983		
	COTACÃO	CUSTO	FER	COTACÃO	CUSTO	FER	COTACÃO	CUSTO	FER	COTACÃO	CUSTO	FER	COTACÃO	CUSTO	FER	COTACÃO	CUSTO	FER	COTACÃO	CUSTO	FER	COTACÃO	CUSTO	FER
1	4.07	4.18	319	5.40	6.45	297	9.06	7.96	396	11.12	11.88	368	18.16	21.78	264	37.34	45.00	245	72.96	71.28	333	112.00	137.53	261
2	4.64	4.60	357	5.93	6.52	322	8.74	8.28	3.61	13.06	12.17	339	18.93	22.67	2.60	37.98	48.37	248	74.58	75.13	315	133.96	153.59	261
3	5.91	4.60	3.57	7.23	6.85	3.83	9.89	8.99	3.67	15.07	13.59	371	21.24	23.41	2.80	47.92	53.19	248	90.21	79.72	3.60	143.85	164.93	2.76
4	5.81	4.75	4.48	7.60	6.90	4.04	10.68	9.52	3.97	15.01	14.45	339	26.87	23.41	2.80	55.64	53.43	329	114.15	87.89	4.18			
5	5.26	4.80	4.01	7.97	7.22	3.95	10.81	10.19	3.41	13.67	15.05	3.09	27.26	23.88	3.55	57.05	53.56	338	111.78	92.80	4.10			
6	5.66	5.35	3.90	8.07	7.22	3.99	11.23	11.23	3.34	15.14	15.69	3.20	27.35	24.04	3.60	46.59	54.86	2.67	105.11	95.34	3.85			
7	5.98	5.35	4.06	8.42	7.37	4.18	11.77	11.50	3.40	15.54	16.24	3.25	25.23	25.48	3.14	50.55	54.91	2.90	106.56	95.95	3.79			
8	6.50	5.73	4.03	7.80	7.19	3.87	11.83	11.71	3.41	17.53	17.26	3.28	28.11	30.54	3.07	56.87	54.91	3.26	107.81	99.60	3.66			
9	5.26	5.93	3.18	7.68	7.22	3.87	11.54	11.69	3.33	16.63	18.20	2.84	28.54	35.15	2.67	60.69	58.70	3.38	121.44	105.45	3.91			
10	5.63	6.21	3.25	7.73	7.73	3.50	10.69	11.64	3.08	17.75	18.48	3.04	27.43	36.82	2.43	61.61	59.78	3.35	111.62	107.27	3.50			
11	5.26	6.16	3.03	8.59	7.48	3.89	10.21	11.77	2.80	18.43	19.61	3.01	33.46	42.63	2.54	63.30	64.84	3.28	97.36	111.90	2.86			
12	5.22	6.19	2.92	8.76	7.76	4.03	10.90	12.25	2.94	21.95	21.47	3.38	34.77	44.97	2.47	67.74	67.74	3.54	112.20	137.53	2.61			
平均	5.43	5.32	3.59	7.60	7.16	3.78	10.61	10.56	3.41	14.75	14.95	3.25	26.45	29.57	2.86	53.56	55.77	3.04	102.15	91.66	3.55			

- (註1 本表は鶏卵1ダース当り平均農家手取価格をもって何kgの飼料が購入出来たかを見ることを目的に取りまとめたものであり、これを見るための表示方法としてFERという単位を用いる。
 2 FER=Feed Egg Ratio の略 $\frac{\text{鶏卵1ダース当り平均農家手取価格}}{\text{1kg当り飼料価格}}$ をもって算出した数値
 3 Cotacãoは鶏卵1ダース当り平均農家手取価格、Custoは鶏卵1ダースを生産するのに必要な価格

10. 今後のブラジル採卵養鶏界への提言

ブラジル採卵養鶏界は1980と82年の史上最悪潰滅的な市況によって大打撃を受けたことによって生産農家全体がブラジルの養鶏は過去の養鶏天国、養鶏王国と謳われたよき時代は過ぎ去り今は昔の語り草となり、現在は新時代に転換し、過去において養鶏先進国が経験した厳しい時代に突入したことに身をもって気がついたことと思う。養鶏の好、不況は洋の東西をとわず、生産量と消費量のアンバランスによって起ることは間違いのないことであり、不況を招来すること自身は養鶏家自からが作った人災であり、大いに反省しなければならないことである。今後のブラジル養鶏を安定させ、養鶏農家の生活権を確保し、又企業養鶏の投下資本に対する適正利潤の確保を計ろうとするならば、養鶏産業全体の各部門が利己的な考え方（例えば自己さえ良ければ他はどうなってもかまわないというような考え方）を止め養鶏産業全体としてはどうあるべきか、全体としての考え方に改めるべき時期に来ている。

今後やらなければならない諸点は

① 生産調整の為の種鶏孵化業者の自粛

ブラジルの飼育羽数の調整は個々の生産農家ではその実態が判らない以上不可能なことであるが、雛の生産と供給を荷なっている種鶏孵化場なら、これが容易に判るので孵化場相場相互が協調して雛生産羽数を調整することは、そう困難なことではないと思われる。僅か11～12孵化場数であり、そのうち伊勢、コチア産組、長尾産組中央会、の4大孵化場が全ブラジルの60%以上を占めているおりこの4大孵化場が率先して自粛し、適正生産羽数を生産供給するようにすれば、事は簡単であろう。

現時点におけるブラジルの更新用初生雛の適正羽数は月間350万羽、年間4200万程度である。これに対して生産能力の合計は月間500万羽以上あり、各孵化場ともこの生産能力いっぱい生産し、かつ100%の販売を目標としているためそれが、乱売合戦及びダンピング販売の原因となっているわけである。適正羽数350万羽以上供給すれば、生産過剰になる。生産過剰になれば、生産農家が損をし、苦しくなる。生産農家が苦しくなれば、孵化場、飼料会社、薬品会社等総ての関連部門が連鎖的に悪くなる。という因果関係にある。従って孵化場の社会的責任は極めて大であり、猛反省し、今後再び不況を招来するようなことのないよう一日も早く世界（孵化場）相互に協議し、雛生産を調整するよう努力願いたい。

② 鶏卵取扱業者に考えてほしいこと

現在の大都市における大口鶏卵取扱業者及び農協（産組）関係の鶏卵取扱販売経費が異常に高いように思われる。大は取扱業者は卸し販売が主体であり卸し価格も基準として、農家買取り価格を決めることは判るがその差が常識では考えられない差額である。本年4月現在で大型中型小型何れもの卵も1箱、CR\$2,100である。国情が異なるとは云えホリ

ピアの日系の農協であるサンファン農協は、売器は組合の物、農家の庭先まで集荷に廻り、集めた卵を1,000 k離れたラバス市場まで運送し販売しているが、この中間経費は僅か12%である。

パラグアイの拓進ジョボーイラ農協もほぼ同率、同じブラジルのマナウスのエフジーニオ、サーレス農協も、ほぼ同率、ペレンにおいても同じそこの取扱い業者も同じ手数量でやっている。サンパウロ近郊の中小取扱い業者は、12%から15%でやっている。伊東、オーボ、アプロオーボコチア産組等、大口取扱い業者は何故卸し価格の30～40%の経費を取らなければやれないのか不思議である。業者の言い訳は、鶏卵容器が新品である。鶏卵処理工場の設備、処理費、運送費、事務経費、売掛金の金利、等々が高いからという。しかし本当の理由は販売政策のまずさと他人の品物であるという無責任さから来ているのではないかと著者には思われてしかたがない。

大口取扱い業者は競ってスーパー店に売込んでいる。そして売込み競争の為、値引き(デスコント)販売支払い条件、30～45日、売れ残りの破損卵腐敗卵の取替え等々スーパーの云いなりの条件で販売している。新聞に発表されている卸し価格からCR\$500～600の値引き(デスコント)は普通である。これは完全な買手市場で、生産者側の目的である良い意味での買手市場とは正反対となっている。勿論生産過剰によって鶏卵が余る一時期なら、それもやむを得ないであろうが、現在のように卵の不足している時期でもそれが継続されている。これは生産者にとっても消費者にとっても、不利益なことである。取扱い業者は、常に生産者と消費者の立場に立って、不当な利益をむさぼるスーパー店、小売店への対策を考えて載き度いと著者は関係者の一人としてつくづく思うものである。

③ 生産者の団結と組織作り

個々の生産者は常に弱いものである。自分で作った生産物価格は取扱い業者が決めた価格でしか販売出来ない。反面、購入する飼料や施設器具、薬品等はメーカーの作った価格で購入する他はない。しかし生産者個々は弱いが、これが団結した組織体になれば強くなる。今迄の養鶏家はこの点あまりにも無関心であったと思う。今後は養鶏家自から自分達の組織作りをすることである。利害が一致する一地域に1つの養鶏組合的な組織を作り、その輪を広げて行き、最終的には全伯的な養鶏連合組織を作れば良い。こうすれば政府に対する要請、生産調整鶏卵取扱い手数料、飼料政策、鶏伝染病のコントロール等々、今までの問題が解決出来ると思う。養鶏家は誰かがやってくれるだろうと待つのではなくして、自分達の組織は自分達で作るという気持でなければならぬ。真剣に考えるべき時代である。なかなか困難な問題であるが将来の方向としては、生産者の大同団結が必要不可欠であり、そのために政府機関も農業政策上において行政指導されることを期待してやまない。

④ 中，小養鶏家が生きのびる途

現在迄 100 万羽規模の大型企業養鶏家が1つ出来れば1万羽規模の養鶏家が 100 戸つぶれるという理論が強かったが，果してそうだろうか。現時点では大型だから生産コストが安いとか，鶏卵の販売経費が少なくてすむと云うことは無いように思う。むしろ生産地域による格差，経営センスによる資金運用や生産技術による生産性の格差による利益率の差が高いと思われる。従って，中小養鶏家の生き残される途は多くなにも心配することはないものと思う。即ち1万～2万羽の小規模養鶏家は50万羽100万羽の大規模と同じやり方をするのではなく大型ではやれないキメの細かい養鶏本来の原点に戻った精密（集約）かつ堅実な経営をもって生産性を上げ，美味な高品質の卵を作り，1万羽で，2～3万羽分の利益を上げることに努力することによって高金利，生産資材の高騰等厳しい条件下にあって充分有利な経営が展開しているものと考えられる。

11. その他参考事項

(1) ブラジルの鶏病事情

ブラジルの鶏病，伝染病は養鶏先進国並の総ての病気が発生しているといっても過言ではない。因みに発生している鶏病を整理すると次のような鶏病がある。

A ビールス性伝染病

ニューカッスル(N, D)，鶏痘(F, Pox)，伝染病気管支炎(I, B)，伝染病脳脊髄膜炎(A, E)，マレック病(M, D)，白血病(L, D)，ガンボロ病(I, B, D)，産卵低下症候群(E, D, S)，伝染性下痢症(Monocytosis)等々

(註)なお伝染性喉頭気管支炎(L, T)は未発見

B 細菌性伝染病

コリーザ(IC)，慢性呼吸器病(CRD)，鶏チブス(TIFO)，パラチブス(Paratifo)，各種ブドー状球症，鶏コレラ(Colera)，大腸菌症，真菌症等々

C 原虫性伝染病

鶏コクシジウム症，鶏スペロヘータ症，黒頭病等

(註)日本で発生しているロイコチドゾーン症は未発見

ビールス性伝染病はそのほとんどがワクチンの予防接種によってコントロールされているがニューカッスル(N, D)，鶏痘(F Pox)，伝染性病気管支炎(I, B)，伝染病脳脊髄膜炎，カンボロ病(I, B, D)，産卵低下症候群(EDS)の諸ワクチンは現在総て国内のラボラトリーにおいて製造販売されている。但しE, D, Sのみはまだ未許可であるためオランダから正式輸入されている。国産のワクチンも近日中に許可が出る予定である。

細菌性伝染病の内最も発生率の高いコリーザもICワクチンによってコントロールさ

れているが、本ワクチンも国内の2～3のラボラトリーで製造販売しているものと日本の北里研究所製の輸入ワクチン（在庫）が使用されている。（今年中には北里研究所のノーハウで製造開始の予定）

慢性呼吸器病（C.R.D）ワクチン、チブス、コレラのワクチンも製造販売されているがこれは量的に少ない。

鶏コクシジュームの予防薬、内部寄生虫の予防薬等は飼料添加剤として、総て輸入されている。

現在ブラジルのワクチン製造有名メーカーとしては次のものがある。

a RHODIA MÉRIEUX 社

M.O, I.B, N.D, F. POX, C.R.D, ワクチンの製造販売今年中に北里研究所のノーハウでI.C ワクチンの製造開始

b BRASIL SALSBUURY 社

M.D, N.D, I.B, F. Pox, A.E, I.B.O, I.C, の製造販売

c BIO VET 社

M.D, N.D, I.B, F. Pox, I.B.D, I.C, の製造販売 E.D.S, は近日中に許可が出る予定

d VALLEE 社

M.D, N.D, F. Pox, I.C の製造販売

その他中、小のワクチンメーカーが10以上有る

D 伝染病発生の動向

1970年代の年々10%以上の飼育羽数増加当時は主としてC.R.D, N.D, I.C, I.B, 等の発生が多く、特にC.R.D, の被害が大であった。これに対して、I.C, ワクチンの予防が普及され、発生が減少してゆく傾向に有ったが1979年、80年をピークとした飼育羽数が減少しつつあるためか、羽数の減った地域と養鶏場にはこれらの病気の発生が減少している傾向にある。これはカンボロ病（I.B.D.）の予防効果もあるかも知れないが、飼育羽数の数少が関係していると思われる。

a 産卵低下症候群（E.D.S）

1978年頃より赤鶏にE.D.Sと思われる新しい伝染病が発生し、病名が判る迄は赤卵病という名前が付けられていた。本病はその後、全伯的に流行しており隣国のパラグアイ、ポリビアも入っている。発生の古い地帯では本病ワクチンの予防を行なっているせいか発生はなくなり、現在発生している地帯は、未予防の本病の処女地帯である。

b マレック病（M.D）

現在問題になっているのは、マレック予防済みの鶏群にかなり高率にマレック病が発生（5～20%）していることである。

発生鶏群を販売した各孵化場の頭痛の種となっているが発生原因は今のところ不明である。考えられることは、本ワクチン輸入禁止後、国産ワクチンに代ってから発生が多くなっていることから、ワクチン製造技術上の価の低下ではないかと考えられる。

（付） ブラジルワクチン価格 （単位；CR\$）

病名	単位	当該単位当り価格
ニューカッスル(N.D)	生病毒	1,000羽分 370～380
	死病毒油性	1,000羽分 3,000～3,800
マレック病(M.D)	1,000	2,800～3,000
伝染性気管支炎(I.B)	生病毒	1,000 600～650
カンボロ病(I.B.D)	1,000	1,500～1,600
鶏痘(F. Pox)	500	550～600
産卵低下症候群(EDS)	500	7,500～10,000
コリザ(IC)	死菌輸入品	500 8,000
	“国産	500 5,000～6,000

(2) ブラジルの鶏卵輸出量

ブラジルから諸外国に輸出した鶏卵数量はCACEX資料によると次のようになっている。

（単位；輸出量二箱，FOB価格＝US\$）

年度	輸出量	FOB価格
1979年	7,847箱(30ダース)	178,644
80年	415,929箱	7,415,467
81年	523,747 "	10,002,393
82年	203,294 "	3,930,552

（註）輸出量の1箱は鶏卵30ダースに当たる

81年が輸出のピークであったが当時は輸出価格が30ダース1箱が18ドル程度で輸出業者も赤字を出さずに輸出が可能であった。現在は世界的経済不況の為か卵価が下落し、13ドル程度におちている。又、中近東にはヨーロッパの方が近く、ブラジルから船賃1箱8ドルの半分でありこの4ドルの差が、ブラジルの輸出をさまたげている。現在のところ輸出は不可能である。

(付)参考-卵価飼料価の値上り率比較

(単位:金額とCR\$率=%)

年 度	卵価(タイプ大型, 1ダース当り)		飼料価(kg当り)	
	金 額	年	金 額	年
1974	2.80		1.02	
75	3.35	+ 19.6	1.29	+ 26.4
76	4.70	+ 40.2	1.64	+ 27.1
77	6.20	+ 31.9	3.13	+ 29.8
78	8.90	+ 43.5	3.25	+ 52.5
79	13.00	+ 46.0	5.65	+ 73.8
80	23.80	+ 83.0	12.35	+118.5
81	43.50	+ 82.7	17.50	+ 41.7
82	70.50	+ 62.0	35.50	+102.8
83	145.00	+105.6	65.00	+ 83.1
備考				
最近過去10年間の値上げ率		+ 5.078%		+6.272%
最近5ヶ年間の値上げ率		+ 1.015%		+ 1.000%

(註) (1) 率は $(\frac{\text{当該年度金額}}{\text{当該年前年度金額}} \times 100 - 100)$ をもって算出した。

(2) 備考の値上げ率10カ年の場合は $(\frac{1983\text{年度金額}}{1974\text{年度金額}} \times 100 - 100)$ 5カ年の場合は $(\frac{1983\text{年度金額}}{1979\text{年度金額}} \times 100 - 100)$ をもって夫々算出した。

(3) 率において+表示は伸び(増価)を示す。

第2編 肉鶏（ブロイラー）養鶏編

1. 一般概況

1970年代、年率20%以上の増加率で増え続けて来たブロイラー生産羽数も1980年をピークとし、限界に達した如くその伸び率はストップし、むしろ減少傾向にある。ブロイラー生産業界は81年82年と2年続きの不況で、インテグレーターも生産者も大巾な赤字を負い、コンコルダット（和議倒産）におちいった企業体も少なくない。雄生産孵化場も、例外ではなく1980年最盛期の約220孵化場がこの不況によって倒産、又は事業を中止し、83年4月現在はブラジル全体で150～160孵化場に減少していると言われている。この不況の原因は採卵鶏業界同様に、矢張り生産過剰によるものと見られる。

ブラジルにおけるブロイラー生産羽数は1977年当時すでに日本の年間生産羽数、約5億羽と同一水準に達し、昨年82年度は11億羽を越している。これは同一国内人口、約1億2000万人をかかえる日本との比較において、ブラジルの生産羽数は、日本の約倍といえる。此の生産羽数の内30万トン（約2億羽分）を輸出しているから残9億羽は、国内消費されていることになる。鶏卵の推定消費人口、6500万人と同一と考えた場合、一人年間13.8羽程度の消費となり、日本の一人当たり年間5羽からすれば、28倍程度の消費量となる。

ブラジルに於ける1970年代のブロイラー生産の急成長は、商工業の急速な発展に伴なり都市部の消費人口の増加と、それ迄の牛肉主体から、牛肉より割安のブロイラー肉に変わって行ったことが主因と考えられる。例えば1970年を指数100とした場合、1980年度のインフレ指数は2964、牛肉価格指数3904、ブロイラー肉1850であり、ブロイラー肉の値上り率はインフレ指数より1,100も少なく、牛肉より2,050も低率である。又最低給与額で購入可能な数量（産量）は、1970年には牛肉459k、ブロイラー肉443kであったものが、1980年には牛肉28.5k、ブロイラー肉60.5kとなっているので、低所得者が多いブラジルのブロイラー肉消費増は当然の傾向と言える。又政府による輸出奨励策も生産増加の一因になったものと考えられる。1983年は国内全般の不景気による消費力減退により、消費量は昨年より減少するのではないかと見られる。従って国外への輸出の増加が無ければ生産羽数は昨年度並か、昨年度より多少減少するものと見られる。

4月末現在におけるブロイラー生産者の景気は2カ年間の長期不況の反動からか好況に転じている。都市近郊の独立生産者の庭先渡しの生体価格は、1K CR\$26500、産組関係 CR\$22000である。

この時点の生産コストは1K当り CR\$22000程度である為、独立生産者は1羽当り CR\$80～90位の利益である。

インテグレーション傘下、又は産組関係の契約生産者は収支トントンか多少の黒字になっ

ている。

市場は強気相場であり、5月6月を更に値上りする傾向が有る。従って生産者もここ数ヶ月間は利益が出るものと推定される。

2 プロイラー生産地の分布

1982年度末地方別、州別飼付羽数 (単位：飼付羽数=100万羽、比率=%)

地方区分, 州名	飼付羽数	比率
南 東 部 地 方		
サンパウロ州	285.7	24.54
ミナス州	128.3	11.62
リオ州	54.1	4.65
エサント州	13.2	1.14
計	481.3	41.35
南 部 地 方		
リグ・スール州	188.2	16.16
パラナ州	138.9	11.93
サンタカタリーナ州	234.3	20.13
計	561.4	48.22
中 西 部 地 方		
ゴヤス州	6.9	0.59
連邦区	6.3	0.54
南マ・グロンソ州	0.6	0.05
計	13.8	1.18
東 北 部 地 方		
ベルナンブーコ州	35.8	3.08
バイア州	7.5	0.64
セアラ州	30.2	2.60
北、リオグランデ州	1.6	0.14
アラゴアス州	1.0	0.09
セルジッペ州	5.1	0.44
アラニオン州	3.3	0.28
ピアウイー州	2.4	0.20

地方区分、州名	飼付羽数	比率
パラíba州	47	0.40
計	91.6	77.8
北部地方		
アタレ州	0.2	0.02
アマゾナス州	4.7	0.40
パラ州	9.9	0.85
ロンドニア直轄区	0.4	0.04
アマバ直轄区	0.3	0.03
計	15.5	1.34
合計	11億 6,360万羽	100

(註) (1) 本表はAPINCO(プロイラー雞生産協会)資料を引用

(2) 比率は全ブラジル飼付羽数に対して占める割合を表示したものである。

大生産州は

1. サンパウロ州	2億8,570万羽	24.54	(全伯飼付羽数に対する 当該州の占める割合を示 す。)
2. サンタカタリーナ州	2億3,430万羽	20.13	
3. リオグランデスール州	1億8,820万羽	16.16	
4. パラナ州	1億3,890万羽	11.93	
5. ミナス州	1億2,830万羽	11.02	

であり、この5州で9億7,540万羽ブラジル全体の83.8%を占めている。

この5大生産州における1981年と82年を比較すると下表のようになっている。

州名	1981年	1982年	同左対前年増減比
サンパウロ州	300,760千羽	285,700	- 5.00
サンタカタリーナ州	200,184	234,300	+ 17.04
リオグスール州	194,500	188,200	- 3.24
ミナス州	95,665	128,300	+ 34.12
パラナ州	110,330	138,900	+ 25.93

本表より、サンパウロ州とリオ・グランデスール州が減少したのに対し、ミナス州34.12%、パラナ州の25.93%、サンタカタリーナ州17.04%と、インテグレーションの盛んな州が伸びていることが判明する。

3. プロイラーの生産形態

ブラジルにおけるプロイラーの生産形態は先進諸国とほぼ同様である。1960年代は、屠殺場及び販売組織を有する農業協同組合、又は一部の畜産会社傘下の生産者が生産の主体となっていた。

当時の生産の主力は、採卵鶏同様に雛生産孵化場及び屠殺場が多いサンパウロ州であり同州の生産量は全ブラジルの生産量の70～80%を占めていた。生産物はサンパウロ市場以外に、リオ、ブラジリア、ペロオリゾンテ、サルバドール、レシフェ及びその他の地方都市に屠体冷凍品として供給していた。

1969年、コチア産業組合がブラジルで初めてのインテグレーション（生産価格補償制度）に着手したが、着手した初年度に不幸にしてプロイラー産業界の大不況にあたり、赤字補填の資金に行きづまりを来したため、これを中止してしまったのであるが、ブラジルプロイラー産業のインテグレーションシステムは、コチア産組が先鞭をつけたものである。

その後、畜産企業であるサンタカタリーナ州のサジア社がアメリカ、システムのインテグレーションに乗り出し成功し、ベルジゴン、セアラリオグランデ州のコパベ、アビバル等々が次々と本インテグレーションシステムによる生産に着手し、一大飛躍をなし遂げている。現在のブラジルの生産形態は、次の4形態に大別出来る。

(1) 完全インテグレーションシステムによる生産

雛、飼料、薬品等の生産資材及び技術指導をインテグレーターが供給し、出来た生産物を総て引取り、鶏舎償却費、労賃等に相当する一定のマージンを保証する方式

サジア、ベルジゴン、セアラ等、前述の大企業体はほとんどがこの方式である。

(2) セミ、インテグレーション、システムによる生産

雛、飼料等の生産資材を生産者が自己資金で購入し、生産したプロイラーを出荷契約した。屠殺場（組織）に先渡す、この場合の買取り価格は市場相場を基準にするが、不況でプロイラー生体価格が生産コストにみえない場合、再生産が継続出来る程度の生産コストを補償する。この補填資金は好況の時、利益の一部を積立てておく。例えば市場の生体価格KCR\$300の時、CR\$270で買上げ差CR\$30を積立てる）コチア産組等はこの方式である。

(3) 一企業体の一貫生産販売システム

一企業体が種鶏場孵化場、飼育施設、屠殺場、飼料工場を所有し、雛の生産から屠殺販売迄やる方式、イタンビー種鶏場はこの方式である。

(4) 独立した生産者による生産システム

消費都市近郊の中小規模生産者は、自己資金で飼料、雛等を自分の好む飼料メーカー、孵化場から購入し、生産したプロイラーは、その時の市場価格（生体）で取扱業者到庭

先で先渡す、これは一部の消費者が好む生体販売用で価格も高く生産者の利益率が高い、又一部の生産者は自家屠殺し、小売店に卸し販売しているケースも有る。このケースは一番利益率が高い。

インテグレーション方式による生産と独立生産者による生産比率

ABSP (サンパウロ屠殺場協会) の資料による単位 10,000 羽/月産

方式区分	1980年		1981年		1982年	
	屠殺羽数	比率	屠殺羽数	比率	屠殺羽数	比率
インテグレーション	万羽 4,637	% 30.3	万羽 4,981	% 45.6	万羽 6,435	% 50.0
独立生産	7,468	61.7	5,936	54.4	6,441	50.0
計	12,105	100	10,917	100	12,876	100

1982年度における各州のインテグレーション方式と独立生産の比率

州名	インテグレーション	独立生産者
サンパウロ州	42%	58%
ミナス州	33	67
サンタカタリーナ州	89	11
リオグランデド・スール州	66	34
パラナ州	81	19
計	50	50

(註) 本表当該州の全屠殺羽数に占める方式別比率を見たものである。

この数字から判明出来ることは、ブラジル全体として、インテグレーション方式による生産が増加しつつあることと、サンタカタリーナ州、パラナ州、リオ・グランデド・スール州がインテグレーション方式による生産が多いことである。

4. プロイラー雛の生産形態

ブラジルにおけるプロイラー雛の生産形態は採卵用雛と同一形態である。祖父母鶏 = Grande parents Stock (G.P.S) を諸外国より輸入し飼育する G.P.S 農場、そこで生産した両親鶏 = parents Stock (P.S) を各種鶏、孵化場が購入飼育し、それから生産した南米用雛 = Comercial check を生産者が購入するという 3 段階生産方式である。

1983年4月末現在におけるブラジルの G.P.S 農場は

(1) ARBOR ACRE S/A アーバーエーカー社

北米アーバーエーカー社直営農場

サンパウロ州、サンカーロス市

- 鶏種 アーバーエーカー AABB種
- (2) BIG BIROS S/A ビッグバーズ社
北米ビッグバーズ社直営農場
サンパウロ州，タツイ市
鶏種 ケネデック KENEDEC種
- (3) COBB DO BRASIL LTDA ブラジルコーブ社
北米 コーブス社直営農場
サンパウロ モジキリン市
鶏種 コーブ COBB種
- (4) CAC CC コチア産業組合中央会
オランダ，EURIBRIO社より輸入
サンパウロ州，アラツイアーバ市
鶏種 ハイプロ HYBRO種
- (5) GRANJA ELDORADO SC エルドラード種鶏場
イスラエル，アナツキ社より輸入
サンパウロ州 バリーニョス市
鶏種 アナツキ ANAK種
- (6) GRANJA GUANABARA S/A グアナバーラ種鶏場
ブラジル唯一の国産改良種
リオ州
鶏種 G 210種
- (7) GRANJA REZENDE S/A レゼンデ種鶏場
ミナスゼライス州 ウーベルランジャ市
北米 ハーバード社より輸入
鶏種 ハーバード，HUBBARD種
- (8) GRANJA ITO LTDA 伊藤種鶏場
北米 ハイライン社より輸入
サンパウロ州 カンピーナス市
鶏種 インジャンリーバー，INDIAN RIVER種
- (9) SADIA AGRO PASTORIL LTDA サジア社
北米 ビルケ社より輸入
サンタカタリーナ州 ファシナール市
鶏種 ビルケ，PILCH種

00 SHAVER AVICULTURA LTDA シェーバー社

シェーバー社直営農場

サンパウロ州 カンピーナス市

鶏種 スターブロ STERBRO種

(註) 1983年4月閉場

01 ISA AVICOLA LTDA イサアビコラ社

フランス、イサ社直営農場

サンパウロ州 タツイ市(旧 N.H.G.P.S農場である)

鶏種 イザベテッテ I.S.A VEDETTE種

02 PERDIGÃO AGRO ベルジゴン社

北米 ブルドー社より輸入

サンタカタリーナ州

鶏種 ブルドー PURDUE種

03 COOPAVE コパーベ(産組)

北米 ハイストルフネルソン社より輸入

リオグランデドスール州

鶏種 ミートニック, HN MERT NICK種

以上の13祖父母鶏(GPS)農場がある。このGPS農場によって生産される両親(P
S)鶏は雌雛年間1,100~1,200万羽である。

5. プロイラー種鶏(P S雌雛)の生産羽数の推移

年 度	年間生産羽数	生産羽数対前年度比較	
		増 減 羽 数	増 減 率
1970	2,545,355	-	-
71	3,114,463	+ 569,108	+ 22.3
72	3,905,843	+ 791,380	+ 25.4
73	3,907,294	+ 1,391	+ 0.35
74	5,280,646	+ 1,373,412	+ 35.1
75	4,727,338	- 553,308	- 10.4
76	5,956,861	+ 1,229,523	+ 26.0
77	6,310,788	+ 353,927	+ 5.9
78	7,319,962	+ 1,009,173	+ 15.9
79	8,768,209	+ 1,448,247	+ 19.7

年 度	年間生産羽数	生産羽数対前年度比較	
		増減羽数	増減率
1980	12,105,311	+ 3,337,102	+ 38.0
81	11,927,565	- 1,777,446	- 14.6
82	11,185,860	- 741,705	- 6.21

(註) (1) U B Aの資料利用

(2) 「生産羽数対前年度比較」の欄の増減羽数は当該年度生産羽数が前年度同羽数に増加している場合はその増加羽数を+、減少している場合はその減少羽数を-表示によってその増減羽数を表し、その比率は $\left(\frac{\text{当該年度生産羽数}}{\text{前年度生産羽数}} \times 100 - 100\right)$ をもって算出した。

1971年から1980年の10年間で3,114,463羽から12,105,311羽へと8,990,848羽増羽し、(2886%増)388倍増大した。

又、1978年から1982年の過去5カ年間では、7,319,962羽から11,185,860羽へと3,865,897羽増で52.8%の増で52.8%の増加を来した。このように1970年代のブラジルのブロイラー生産の発展が如何に急激であったかが理解出来る。

1982年度の各州別のブロイラー雌生産羽数

地方区分州名	生産羽数	比 率
南 東 部 地 方		
サンパウロ州	299.5	25.70
ミナス州	172.5	14.80
リオ州	42.9	3.68
エ・サント州	10.5	0.90
計	525.4	45.09
南 部 地 方		
リオグスール州	193.7	16.62
パラナ州	125.8	10.80
サ・カタリーナ州	206.3	17.70
計	525.8	45.13
中 西 部 地 方		
ゴヤス州	0.2	0.01
連 邦 区	10.9	0.93
計	11.1	0.95
東 北 部 地 方		

地方区分, 州名	生産羽数	比率
ベルナンブーコ州	414	3.56
バイア州	5.3	0.46
セアラ州	359	3.08
セルジッペ州	2.5	0.21
マラニョン州	2.4	0.20
ピアウイー州	0.3	0.02
パラíba州	0.4	0.03
計	88.2	7.57
北部地方		
アクレ州	0.2	0.02
アマゾナス州	4.3	0.37
パラ州	9.5	0.82
ロンドニア州	0.4	0.03
アマバ直轄区	0.1	0.01
計	14.5	1.24
合計	1,165.2	100

(註) (1) 本表は APINCO (ブロイラー雛生産協会) 資料引用

(2) 比率は全ブラジル生産羽数に対して占める割合を表示した。

ブロイラー雛の5大生産州の順位は

1位サンパウロ州で全体の25.70%, 2位サンタカタリーナ州17.70%, 3位リオ・グ
ドスール州16.62%, 4位ミナス州14.80%, 5位パラナ州10.80%であるが、飼育羽数
20.13%を占めるサンタカタリーナ州及び11.93%を占めるパラナ州は自州内での雛生産
が不足し、他州から雛の供給を受けている。

(表13)

ブロイラー雛生産能力と生産実績

(単位:羽数=羽率=%)

州名	生産能力羽数	1981年度生産実績			1982年度生産実績		
		生産羽数(B)	生産余力 (A-B=C)	生産能力率 ($\frac{C}{A} \times 100$)	生産羽数(D)	生産余力 (A-D=E)	生産能力率 ($\frac{E}{A} \times 100$)
Sao Paulo	406,159,864	314,632,018	- 91,527,846	- 22.53	299,505,878	-106,653,986	-26.25
Minas Gerais	215,196,776	150,563,940	- 64,632,836	- 30.03	172,465,807	- 42,730,969	-19.85
Rio de Janeiro	60,282,863	47,472,610	- 12,810,253	- 21.25	42,890,734	- 17,392,129	-28.85
Espirito Santo	12,483,471	10,792,767	- 1,690,704	- 13.54	10,539,007	- 1,944,464	-15.57
南東部地方小計	694,122,974	523,461,335	-170,661,639	- 24.58	525,401,426	-168,721,548	-24.30
R. Grande do Sul	272,237,350	181,561,537	- 90,675,813	- 33.29	193,660,760	- 78,576,590	+28.86
Paraná	147,216,748	110,198,577	- 37,018,171	- 25.14	125,845,585	- 21,371,163	+14.52
Sta Catarina	242,726,161	182,312,618	- 60,413,543	- 24.89	206,289,078	- 36,437,083	+15.01
南部地方小計	662,180,259	474,072,732	-188,107,527	- 28.40	525,795,423	-136,384,836	-20.60
Goiás	156,134	0	- 156,134	-100.00	162,340	+ 6,206	+ 3.97
Dist. Federal	8,902,484	8,358,650	- 543,834	6.11	10,944,828	+ 2,042,344	+22.94
中西部地方小計	9,058,618	8,358,650	- 699,968	- 7.727	11,107,168	+ 2,048,550	+22.61
Pernambuco	61,094,014	49,733,545	- 11,360,469	- 18.60	41,451,120	- 19,642,894	-32.15
Ceará	53,203,173	35,770,529	- 17,432,644	- 32.77	35,880,072	- 17,323,101	-32.56
Bahia	11,189,918	9,521,018	- 1,668,900	- 14.91	5,340,900	- 5,849,018	-52.27
R. Grande do Norte	0	643,024	+ 643,024	+100.00	0	0	0
Alagoas	0	0	0	0	0	0	0
Sergipe	2,632,988	790,500	- 1,842,488	- 69.98	2,490,000	142,988	- 5.45
Maranhão	5,102,549	375,904	- 4,726,645	- 92.63	2,400,386	- 2,702,163	-52.96
Piauí	622,032	0	- 622,032	-100.00	295,168	- 326,864	-52.55
Paraíba	1,779,966	345,108	- 1,434,858	- 80.61	361,500	- 1,418,466	-79.69
F. Noronha-Ter	153,290	0	- 153,290	-100.00	0	- 153,290	-100.00
東北部地方小計	135,777,930	79,179,628	-56,598,302	- 41.76	88,219,146	- 47,558,784	-35.02
Acre	245,142	397,840	+ 152,698	+ 62.28	240,845	- 4,297	- 1.75
Amazonas	4,383,716	2,840,900	- 1,542,816	- 35.19	4,326,160	- 57,556	- 1.31
Pará	16,686,077	8,944,842	- 7,741,235	- 46.39	9,544,137	- 7,141,940	-42.80
Rondonia	966,546	879,518	- 87,028	- 9.00	389,122	- 577,424	-59.74
Amapá-Ter	648,484	0	- 648,484	-100.00	176,000	- 472,484	-72.86
北部地方	22,929,965	13,063,100	- 9,866,865	- 43.03	14,676,264	- 8,253,701	-35.99
合計	1,524,069,746	1,116,135,445	-407,934,301	- 26.76	1,165,199,427	-358,870,319	-23.54

(註) (1) 出所: APINCO資料 (2)生産余力: 当該年度の生産羽数(実績)が所有する生産能力羽数に対して数量的にどれだけ過(-表示)不足(+表示)となっているか表示したものである。(3)過剰生産能力率の生産能力が生産実績をどれだけ超過(-表示)不足(+表示)しているかを比率をもって表示した。

表 14

年度別、月別ブロイラー生体 1 kg 当り価格（農家手取）対飼料価格比の推移

年度 月項目	1976			1977			1978			1979			1980			1981			1982			1983		
	COTAÇÃO	CUSTO	FMR	COTAÇÃO	CUSTO	FMR	COTACAO	CUSTO	FMR	COTACAO	CUSTO	FMR	COTACAO	CUSTO	FMR	COTACAO	CUSTO	FMR	COTACAO	CUSTO	FMR	COTACAO	CUSTO	FMR
1月	7.00	5.30	4.85	7.60	7.94	3.68	9.73	10.00	3.68	1.69	15.63	3.76	2.690	27.81	3.49	5.380	5.564	3.28	7.982	8.673	3.31	15.627	16.218	3.20
2月	6.25	5.39	4.25	7.00	7.91	3.35	9.95	10.31	3.54	1.600	15.84	3.59	3.087	30.67	3.70	6.084	5.980	3.48	8.731	9.297	3.51	15.766	17.654	2.94
3月	6.65	5.39	4.51	7.80	8.24	3.64	10.93	11.06	3.50	1.570	16.70	3.39	3.030	31.59	3.48	5.960	6.519	3.02	9.800	9.979	3.44	15.507	18.670	2.70
4月	6.33	5.40	4.30	7.96	8.61	3.67	10.80	12.49	3.20	1.690	18.50	3.42	3.271	31.97	3.76	5.966	6.528	3.05	9.950	10.555	3.18			
5月	5.60	6.03	3.76	7.80	8.77	3.45	11.67	13.49	3.12	1.59	18.84	3.17	3.000	33.89	3.54	5.763	5.835	3.00	9.200	11.440	2.94			
6月	5.35	6.56	3.41	7.96	8.77	3.52	11.27	13.75	2.88	1.578	19.26	2.95	2.990	33.89	3.44	5.634	7.073	2.91	8.950	11.452	2.84			
7月	5.56	6.56	3.32	8.09	8.99	3.47	11.20	14.18	2.78	1.871	19.91	3.30	3.050	36.82	3.21	5.950	7.152	2.93	9.450	11.565	3.22			
8月	7.23	6.98	3.94	8.95	8.99	3.84	13.30	14.51	3.30	2.366	22.58	4.09	3.261	39.85	3.17	6.450	7.171	3.22	10.711	11.959	3.29			
9月	7.75	7.08	3.93	9.97	9.15	4.28	14.14	14.51	3.51	2.770	24.32	4.13	3.787	43.53	3.26	7.305	7.395	3.51	11.697	12.571	3.33			
10月	7.47	7.60	3.60	9.86	9.24	4.09	15.41	14.51	3.87	2.607	26.78	3.96	3.883	47.11	2.74	7.450	7.494	3.51	11.950	12.990	3.19			
11月	7.10	7.60	3.60	10.00	9.24	4.15	18.69	14.75	4.42	2.590	26.78	3.35	3.590	52.90	2.35	7.550	7.930	3.39	11.650	13.565	2.97			
12月	7.80	7.66	3.89	10.40	9.61	4.14	18.57	15.30	4.12	2.690	27.61	3.49	4.201	55.53	3.06	7.387	8.075	3.12	13.360	14.400	3.20			
平均	6.67	6.46	3.96	8.62	8.79	3.77	12.99	13.24	3.49	2.067	20.65	3.67	3.320	38.78	3.21	6.407	6.891	3.21	10.285	11.537	3.20			

- (註) 1 本表は、ブロイラー生体 1 kg 当り平均農家手取価格をもって何 kg の飼料が購入出来たかを見ることを目的に取りまとめたものであり、これを見るための表示方法として FMR という単位を用いる。
- 2 FMR = Feed Meet Ratio の略 = $\frac{\text{ブロイラー生体 1 kg 当り平均農家手取価格}}{\text{1 kg 当り飼料価格}}$ をもって算出した数値
- 3 Cotação はブロイラー生体 1 kg 当り平均農家手取価格、Custo はブロイラー生体 1 kg を生産するのに必要な生産費

6. プロイラー雛生産能力と実績

ブラジルのプロイラー雛生産能力は1981年度において年間15億2406万羽と計算されている。

この生産能力に対して、1981年度の生産実績は11億1,613万羽で4億793万羽減-267%、1982年度実績は11億6,519万羽で3億5,887万羽減-23.54%となっており、なお相当の生産余力を持ち完全にフル生産の状態にはなっていない。1983年度においても雛生産能力と実績との関係も下表に見られるとおり同様の傾向にある。

	生産能力(1,000羽)	実 績(1,000羽)	実 績 比
1月	160,096	132,942	-16.96%
2月	156,931	125,879	-19.78%
3月	156,579	122,386	-21.83%
4月	157,696		
5月	157,806		
6月	158,381		

7. コマーシャル雛生産種鶏孵化場

ブラジル全域のプロイラー雛生産孵化場の実数は今回は完全に把握することが出来なかったが、1980年のピーク時には220孵化場があると言われている。この中にはインテグネーターの大羽数生産孵化場、組合組織の孵化場、個人孵化場、又採卵用種とプロイラー弓雛、両方を生産する孵化場も含まれているがプロイラー産業界は好、不況のくり返しが早く、特に81年82年と続いた不況によって生産を中止した孵化場が多い、83年4月現在では150～160孵化場が操業しているとのことである。

ブラジルのプロイラー雛生産羽数の90%を占める南東部及び南部諸州の孵化場数は次の通りである。

サンパウロ州34孵化場、パラナ州9孵化場、リオ州11孵化場、ミナス州9孵化場、
 サンタカタリーナ州16孵化場、リオ・グランデドスール州18孵化場、計97孵化場
 A.P.A(パウリスタ養鶏協会)に資料を提出している孵化場数は現在21孵化場となっている。

ブラジルのプロイラー雛生産孵化場として大きいのは

1. REZENDE 種鶏場、ミナス州の月産400～500万羽、2 PLANALTO 種鶏場、サ・カタリーナ月産300～350万羽、3 コチア産業組合サンパウロ月産300万羽等である。

8. 日系のプロイラー雌生産種鶏孵化場

1960年代迄のブラジルに於けるプロイラー生産はサンパウロ州がその70~80%を占め、雌の生産と日系孵化場がそのほとんどを占めていた。

現在は孵化場数も減少し、又他州に大きな孵化場が出現した為その比率はわずかのものになっている。

孵化場名	生産目的(採卵用肉用の区別)	月産(万羽)
コチア産業組合	卵・肉	250~300
スールブラジル産業組合	卵・肉	20~30
伊藤種鶏場	卵・肉	60~80
グランジャサンパウロ(菅原)	肉のみ	20~30
グランジャブラジル(鶴)	肉のみ	25~35
グランジャスマレー(伊藤)	肉のみ	50~100
大里種鶏場	肉のみ	30~50
信大種鶏場	卵・肉	20~30
佐野種鶏場	肉のみ	15~25
タソミ種鶏場	肉のみ	15~25
小野田種鶏場	卵・肉	15~20
平野種鶏場	肉のみ	40~50
イズミ種鶏場	肉のみ	30~40

以上が日系のプロイラー雌生産孵化場であるが、コチア産組伊藤種鶏場を除けば、何れも中小規模であり、プロイラー生産形態そのものが、インテグレーション化している現在、浮沈の激しい独立生産者相手の孵化場経営は今後益々厳しくなるものと思われる。

9. プロイラー屠殺場

ブラジルの食鶏屠殺場は年々増加して来ているが、1957年末に採卵鶏の廃鶏処理を目的とした、コチア産組ジャグアレー屠殺場が、本格的な設備を有した屠殺場の第1号であった(屠殺能力1日10,000羽)その後プロイラー産業が1つの産業形態として定着してから、各地に本格的な近代のプロイラー屠殺場(1日処理能力2万~3万羽)が続々と建築され、現在に至っている。現時点に於けるプロイラー屠殺場の完全把握は出来なかったが、1977年度のブラジル農務省の調査資料によると当時のブラジル全域の屠殺数は89であり、内76が連邦政府の監督下に有る屠殺場でその他は各州の州政府監督下の屠殺物となっていた。連邦政府監督下と州政府監督下の屠殺場の相違点は、前者は農務省派遣の獣医師が常駐し

厳重な衛生監督と病気によって食用に供されない不合格鶏と合格鶏を見分け、不合格鶏はコンテナードをして廃棄処分を指示する。この屠殺場によって処理された製品（アパチード）は輸出版売、又は他の州への販売が可能である。

後者の場合は監督官が常駐することがなく、従って製品の選別が確実に行われているか否か疑問である。この屠殺場の製品はその州内での販売に限られており、他州への販売は出来ない規定となっている。

（註） 現行規定によるコンテナード（廃棄処分）に指示される病気は、CRD（慢性呼吸器病）、MARECK（マレック病）、LEUCOSE（白血病）、PULOROSE（雛白痢病）等々又、VERMINOSE（内部寄生虫病）、COCCIDIOSE（コクシジウム病）、HIPATITE（肝腔炎）等は部分的な廃棄処分もある。

現在のようにブロイラー鶏の病気が多い場合は、このコンテナードの出現率によって大変な手取額差が生じるので、常に問題となっている。しかし何れ近い将来は、同一規定による厳重な監督が行なわれるようになると思われる。

各州別の屠殺場数を見ると下表のようになっている

州名	合計	同左内連邦監督下
サンパウロ州	42	30
サ・カタリーナ州	10	10
パラナ州	8	8
リオ・グ・スール州	7	7
ミナス州	7	7
リオ州	5	5
エスピリットサント州	5	5
バイア州	1	1
ベルナンブーコ州	1	1
マラニオン州	1	1
パラ州	1	1
計	88	76

（註） ブラジル農務省 1977 年資料による

10. サンパウロ州の屠殺場

現在サンパウロ州には、A. B. S. P（サンパウロ州屠殺協会）があり毎月屠殺鶏のデータを作っている同協会の参加している屠殺場数は 46 であり、州全体の 80%以上を占めこの

46 屠殺場をもって月間 1800 万羽の屠殺が行われている。

また、その他他州では例えば 1981 年度のリオグランデ・ドスール州では、14 の屠殺場で年間 1 億 4,726 万羽の屠殺処理が行われ、内訳は連邦監督下の屠殺場で 1 億 337 万羽、州政府監督下の屠殺場で 692 万羽の屠殺が行われたとのこと。

11. プロイラー生産の景気の動向

プロイラー生産者の景気の動向は、その生産形態によっても、又地域によっても異なるので、正額な判断は下し得ない。サンパウロ州内でも都市近郊に於て、生体を庭先で販売している小羽数生産者、又自家屠殺して直接小売店に卸し販売する中小規模生産者等は欠損することがほとんどなく、常に利益を上げているし、他の他方都市でも同様なことが言える。また完全インテグレーション傘下の生産者は養鶏小作か月給取りと同様な一定のマージンが保証されているので、好不況の波を直接かぶることはない。従って景気の動向を探るのは一寸困難であるが、サンパウロ州の動向としては、コチア産業組合が作成した FMR からある程度判断が出来る。

FMRの収支分岐点を3.5とした場合

- 1976年は2カ月間が赤字, 10カ月間の黒字で好況である
- 1977年は3カ月間が赤字, 9カ月間の黒字で好況
- 1978年は6カ月間が赤字, 6カ月間の黒字で平均的には不況
- 1979年は7カ月間が赤字, 5カ月間の黒字で平均的には不況
- 1980年は9カ月間が赤字, 3カ月間の黒字で完全な不況
- 1981年は10カ月間が赤字, 2カ月間の黒字で完全な不況
- 1982年は11カ月間が赤字, 1カ月間の黒字で完全な不況

FMRの収支分岐点を3.3とした場合

- 1976年は12カ月間の黒字で極めて好況
- 1977年は12カ月間の黒字で極めて好況
- 1978年は4カ月間が赤字, 8カ月間の黒字でやや好況
- 1979年は2カ月間が赤字, 10カ月間の黒字で好況
- 1980年は6カ月間が赤字, 6カ月間の黒字で平均的には不況
- 1981年は8カ月間が赤字, 4カ月間の黒字で不況
- 1982年は8カ月間が赤字, 4カ月間の黒字で不況

と見られる。

12. プロイラー価格の推移

年 度	1月初めの価格	12月末の価格	年間値上り率	年間インフレ率
1976年	7.10	8.20	+ 15.49	41.9%
1977	7.60	10.80	+ 42.10	41.1
1978	10.00	19.00	+ 90.00	40.8
1979	17.00	27.00	+ 58.82	77.2
1980	30.00	59.00	+ 96.66	110.3
1981	62.00	85.00	+ 37.09	95.1
1982	87.00	161.00	+ 85.05	99.7
1983	161.00	(237.00)	+ 47.20	-

(註) (1)パウルスタ養母協会 (APA) 資料引用, (2)1983年度の12月末価格は4月29日現在価格を参考までに付記した (3)値上げ率は当該年度の

$$\left(\frac{\text{12月末価格}}{\text{1月初の価格}} \times 100 - 100 \right) \text{をもって算出}$$

上表から見ると、インフレ率より値上率が上廻った年は1977年と78年の2カ年のみであり、値上率が低く、インフレ年との差が最も大きかったのは1981年度である。又過去6ケ年の値上率は(年度末、1976～1982年)1863%と約20倍となっている。

屠体卸し価格の推移

(単位価格=CR\$, 率=%)

年 度	1月初めの価格	12月末の価格	年間値上げ率
1976	11.60	13.70	+ 18.1%
1977	12.80	17.60	+ 37.5
1978	14.40	33.60	+104.8
1979	30.20	不 明	—
1980	不 明	不 明	—
1981	105.00	148.00	40.9
1982	152.00	298.00	96.0
1983	298.00	438.00	46.9

(註) 本表も上表生体価格の推移と同じ要領で表示した。

屠体の卸し価格と生体価格を比較すると生体値上り年より屠体卸し価格の値上り率が常に高くなっていて、屠殺経費が年々高くなっていることが判る。また1976年より1982年末迄の過去6カ年間の値上り率は、2075%で生体価格値上り率1863%より212%上廻っている。

屠殺鶏(屠体)卸し価格と生体価格の比較(1kg当り)

年 度	区 分	屠体卸価格(A)	生 体 価 格 (B)	差額(A-B)	比率($\frac{B}{A} \times 100$)
1976	1月初	11.60	7.10	4.50	61.2
	12月末	13.70	8.20	5.50	59.8
1977	1月初	12.80	7.60	5.20	59.3
	12月末	17.60	10.80	6.80	61.3
1978	1月初	16.40	10.00	6.40	60.9
	12月末	33.60	19.00	14.60	56.5
1979	1月初	30.20	17.00	13.20	56.3
	12月末	—	27.00	—	—
1980	1月初	—	30.00	—	—
	12月末	—	59.00	—	—

年 度	区 分	屠体卸価格(A)	生体価格(B)	差額(A-B)	比率($\frac{B}{A} \times 100$)
1981	1月初	10500	6200	4300	590
	12月末	14800	8500	6300	574
1982	1月初	15200	8700	6500	572
	12月末	29800	16100	13700	540
1983	1月初	29800	16100	13700	540
	4月末	43800	23700	20100	541

過去においては生産者の生体価格は、屠殺鶏(屠体)卸し価格の60%程度で推移して来たのであるが、その比率が徐々に低下して来ている。これは鶏卵同様に卸し販売価格に比し、生産者価格(手取額)が減少していることを意味し、反面、屠殺、販売経費が増大して来ていることを表わしているものである。

(表15)

(単位: CR\$)

調査年月日	生体価格 (価格巾 自~至)	屠殺卸し価格 (価格巾 自~至)
1975		
12. 29	6.90 - 7.10	1120 - 1160
1976		
1 5	6.90 - 7.10	1120 -
1 19	6.70 - 6.90	1080 - 1120
1 26	6.40 - 6.60	1040 - 1080
2 2	6.20 - 6.40	1010 - 1050
3 3	6.60 - 6.80	1080 - 1120
3 15	6.90 - 7.10	1140 - 1180
4 5	6.60 - 6.80	1080 - 1120
4 12	6.40 - 6.60	1050 - 1090
4 19	6.10 - 6.30	1010 - 1050
4 26	5.40 - 5.60	920 - 960
6 7	5.00 - 5.20	860 - 900
6 28	5.40 - 5.60	920 - 960
7 5	5.80 - 6.00	980 - 1020
7 12	6.00 - 6.20	1010 - 1050
7 19	6.10 - 6.30	1020 - 1060
7 26	6.30 - 6.50	1060 - 1100
8 2	6.60 - 6.80	1100 - 1140
8 9	7.00 - 7.20	1160 - 1200
8 23	7.40 - 7.60	1220 - 1260
8 30	7.60 - 7.80	1280 - 1320
9 20	8.00 - 8.20	1340 - 1380
10 4	7.80 - 8.00	1300 - 1340
10 11	7.40 - 7.60	1240 - 1280

(单位：CR\$)

調査年月日	生体価格 (価格巾 自~至)	屠殺卸し価格 (価格巾 自~至)
1976		
10 25	7.00 - 7.20	11.80 - 12.20
11. 16	7.10 - 7.30	12.00 - 12.40
12. 6	7.30 - 7.50	12.30 - 12.70
12. 13	7.50 - 7.70	12.60 - 13.00
12. 20	8.00 - 8.20	13.30 - 13.70
1977		
1 10	7.40 - 7.60	12.40 - 12.80
1. 17	7.20 - 7.40	12.00 - 12.40
1. 24	6.40 - 6.60	10.80 - 11.20
2 28	7.40 - 7.60	12.60 - 13.00
3. 7	8.00 - 8.20	13.60 - 14.00
5. 9	7.80 - 8.00	13.20 - 13.60
6. 6	7.80 - 8.20	12.20 - 12.60
7. 18	8.00 - 8.40	12.60 - 13.00
7. 25	8.20 - 8.60	13.00 - 13.40
8. 1	8.40 - 8.80	13.30 - 13.70
8. 8	8.60 - 9.00	13.70 - 14.10
8 15	8.80 - 8.80	14.20 - 14.60
8 22	9.00 - 9.40	14.60 - 15.00
8. 29	9.40 - 9.80	15.40 - 15.80
9. 5	9.60 - 10.00	16.00 - 16.40
11. 21	10.20 - 16.60	16.60 - 17.00
12. 19	10.40 - 10.80	17.60 - 17.60
1978		
1. 2	9.60 - 10.00	16.00 - 16.40
1. 30	9.00 - 9.40	15.20 - 15.60
2. 13	10.00 - 10.40	16.80 - 17.20
2. 20	11.00 - 11.40	18.40 - 18.80
2 27	11.40 - 11.80	19.00 - 19.40
3. 13	10.80 - 11.20	18.00 - 18.40
3. 28	10.50 - 10.90	16.90 - 17.30
4 25	11.10 - 11.50	19.40 - 20.00
5. 8	11.60 - 12.00	20.40 - 20.80
6 1	11.00 - 11.20	19.20 - 19.60
6. 26	10.00 - 10.20	17.70 - 18.10
7. 24	10.60 - 10.80	18.70 - 19.10
7. 31	11.20 - 11.40	19.70 - 20.10
8 7	12.00 - 12.20	20.80 - 21.20
8. 14	12.80 - 13.00	22.00 - 22.40
8. 21	13.20 - 13.40	22.60 - 23.00
9. 11	13.80 - 14.00	23.60 - 24.00
9. 15	14.60 - 14.80	25.00 - 25.40
10 13	15.20 - 15.40	26.60 - 26.60
10. 20	16.20 - 16.40	28.20 - 28.60

(単位 : CR\$)

調査年月日	生 体 価 格 (価 格 巾 自~至)	屠 体 卸 し 価 格 (価 格 巾 自~至)
1978		
10. 15	1800 - 1800	3120 - 3160
11. 7	1880 - 1900	3320 - 3360
1979		
1. 2	1680 - 1700	2980 - 3020
2. 7	1580 - 1600	2780 - 2820
2 23	1480 - 1500	2580 - 2620
3. 12	1580 - 1600	2780 - 2820
3. 26	1630 - 1650	2880 - 2920
4. 2	1680 - 1700	2980 - 3020
5. 21	1580 - 1600	2880 - 2920
6. 25	1630 - 1650	-
7. 2	1700 - 1720	-
7. 9	1800 - 1820	-
7. 16	1930 - 1950	-
7. 27	2230 - 2250	-
8. 3	2380 - 2400	-
9. 3	2580 - 2600	-
9. 10	2730 - 2750	-
9. 14	2880 - 2900	-
10 8	2580 - 2600	-
11. 30	2680 - 2700	-
1980		
1. 7	2980 - 3000	-
1. 14	3280 - 3300	-
2. 4	3180 - 3200	-
2. 11	2880 - 2900	-
2 25	2980 - 3000	-
2. 29	3180 - 3200	-
4. 18	2980 - 3000	-
6. 20	3180 - 3200	-
7. 4	3280 - 3300	-
7. 18	3380 - 3400	-
8. 4	3680 - 3700	-
8 15	3980 - 4000	-
9. 19	3580 - 3600	-
11. 7	3980 - 4000	-
11. 14	4480 - 4500	-
11 21	4980 - 5000	-
12 12	5480 - 5500	-
12. 26	5880 - 5900	-
1981		
1. 9	6180 - 6200	10000 - 11000
2. 6	5880 - 5900	9400 - 10400
2. 20	5600 - 5700	9200 - 10200

(单位：CR\$)

調査年月日	生体価格 (価格巾 自~至)	屠体卸し価格 (価格巾 自~至)
1981		
3 13	59.00 - 60.00	95.00 - 105.00
3. 20	60.00 - 61.00	97.00 - 107.00
4 6	57.00 - 58.00	90.00 - 98.00
4 24	52.00 - 53.00	83.00 - 93.00
5 8	55.00 - 56.00	90.00 - 100.00
5 15	59.00 - 60.00	98.00 - 108.00
7. 10	64.00 - 65.00	106.00 - 114.00
7. 17	69.00 - 70.00	115.00 - 125.00
8. 7	74.00 - 75.00	123.00 - 133.00
9 18	74.00 - 75.00	123.00 - 128.00
10. 9	74.00 - 75.00	123.00 - 128.00
10 16	76.00 - 77.00	127.00 - 137.00
10. 30	73.00 - 74.00	120.00 - 130.00
11. 6	73.00 - 74.00	120.00 - 130.00
11. 13	73.00 - 74.00	120.00 - 130.00
11 20	73.00 - 74.00	120.00 - 130.00
11 27	73.00 - 74.00	120.00 - 130.00
12. 4	77.00 - 78.00	128.00 - 138.00
12 11	81.00 - 82.00	136.00 - 148.00
12 17	81.00 - 82.00	138.00 - 150.00
12 28	84.00 - 85.00	142.00 - 154.00
1982		
1. 8	86.00 - 87.00	146.00 - 158.00
1 15	89.00 - 90.00	151.00 - 163.00
1. 22	89.00 - 90.00	151.00 - 163.00
1 29	96.00 - 97.00	163.00 - 175.00
2 5	96.00 - 97.00	163.00 - 175.00
2 12	99.00 - 100.00	168.00 - 180.00
2. 19	99.00 - 100.00	168.00 - 180.00
2. 26	99.00 - 100.00	168.00 - 180.00
3 5	99.00 - 100.00	168.00 - 180.00
3. 12	99.00 - 100.00	168.00 - 180.00
3 19	99.00 - 100.00	168.00 - 180.00
3 26	99.00 - 100.00	168.00 - 180.00
4. 2	94.00 - 95.00	168.00 - 180.00
4 7	90.00 - 160.00	160.00 - 172.00
4 16	" "	" "
4 23	" "	" "
4 30	" "	" "
5. 7	" "	" "
5 14	" "	" "
5 21	" "	" "
5. 28	" "	" "
6. 4	" "	" "

(単位：CR\$)

調査年月日	生体価格 (価格巾 自~至)	屠体卸し格価 (価格巾 自~至)
1982		
6 11	94.00-95.00	160.00-172.00
6 18	99.00-100.00	170.00-186.00
6 26	104.00-105.00	178.00-194.00
7 2	107.00-108.00	183.00-200.00
7 9	107.00-108.00	183.00-200.00
7 16	" "	" "
7 23	" "	" "
7 30	112.00-113.00	192.00-204.00
8 6	115.00-116.00	197.00-215.00
8 13	119.00-120.00	204.00-222.00
8 20	" "	" "
8 27	" "	" "
9 3	" "	" "
9 10	" "	" "
9 17	" "	" "
9 24	" "	" "
10 1	117.00-118.00	201.00-218.00
10 8	114.00-115.00	196.00-212.00
10 15	" "	" "
10 22	117.00-118.00	200.00-218.00
10 29	123.00-124.00	211.00-230.00
11 5	129.00-130.00	221.00-240.00
11 12	135.00-136.00	231.00-252.00
11 19	142.00-143.00	250.00-275.00
11 26	145.00-146.00	255.00-280.00
3 12	152.00-153.00	268.00-295.00
12 10	160.00-161.00	282.00-310.00
12 17	" "	" "
12 24	" "	" "
12 31	" "	" "
1983		
1 7	160.00-161.00	282.00-310.00
1 14	156.00-157.00	275.00-302.00
1 21	152.00-153.00	" "
1 28	" "	" "
2 4	" "	" "
2 11	" "	" "
2 18	160.00-161.00	282.00-316.00
2 25	168.00-169.00	296.00-324.00
3 4	176.00-177.00	310.00-410.00
3 11	182.00-183.00	320.00-354.00
3 18	189.00-190.00	333.00-366.00
3 25	195.00-196.00	343.00-376.00
4 8	204.00-205.00	385.00-394.00

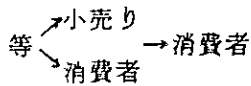
(単位：CR\$)

調査年月日	生体価格 (価格巾 自～至)	屠体卸し価格 (価格巾 自～至)
1983		
4. 15	214.00 - 215.00	376.00 - 413.00
4. 29	236.00 - 237.00	415.00 - 455.00
5. 6	260.00 - 261.00	457.00 - 503.00
5. 13	269.00 - 270.00	473.00 - 520.00
5. 20	" "	" "

13. ブロイラーの流通消費形態

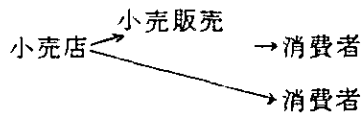
ブラジルのブロイラー流通消費形態は、次の3形態に大別出来る。

- (1) ブロイラー生産者→屠殺場(組織体)→卸し販売→スーパー又は精肉店、鶏卵肉専門店、



- (2) 生産者が自家施設で屠殺し、卸し販売→小売店→消費者

- (3) 生産者→生体取扱い中間業者→生体卸し販売→生体小売販売店、又は露店



消費形態としては

屠体の丸(1羽)、スーパー店ではパーツ(胸肉、モモ肉)専門店では、と体の丸を、消費者の好みと注文によって細断。

屠体の丸焼としての販売量は年々増加している。

屠体、生でも、冷凍物は好まれず、冷却した新鮮物が主である。スーパー店ではパーツの比率が年々高くなっている傾向にある。地方小都市では現在でも生体販売が行われていて、消費者は生たままの鶏を購入しそれを自分で殺して料理するのが一般的である。

流通段階に於けるそれぞれの価格は

生体価格 CR\$237P/K

屠体卸し価格 CR\$438P/K

屠体小売価格 CR\$525～569P/K

パーツはそれぞれの部分によって異なる。

一般に屠体の卸し価格と小売価格の差は卸し価格の約20～30%高となっている。

14. ブロイラー肉と牛肉価格についての諸統計

(1) 勤労者最低給与月額（法定）によって購入可能肉（重量）等について

サンパウロ州農務局、農業経済院（Secretaria de Agricultura de estado de São Paulo, Instituto de Economia Agrícola）資料を引用し下表のように比較を行って見た。

なお下表において、① 勤労者最低給与月額（法定）で購入出来る牛肉量（重量、単位 kg）

② 勤労者最低給与月額（法定）で購入出来るブロイラー肉（重量、単位 kg）

③ F.M.R. 1kg のブロイラー生体価格で購入出来る飼料量（重量、単位 kg）

を意味する。

年 度	①	②	③
1970	459kg	44.3kg	4.9kg
1971	449	51.2	4.3
1972	451	60.3	4.2
1973	351	52.5	4.2
1974	341	45.4	3.8
1975	38.2	54.2	3.6
1976	45.5	57.5	3.9
1977	49.1	90.5	3.7
1978	38.4	60.0	3.5
1979	31.4	57.5	3.6
1980	28.5	60.5	3.2
1981	34.8	63.6	3.2
1982	37.4	78.9	3.2

一般的傾向として、最低給与月額（サラリーミニモ）をもって購入し得る肉量は、牛肉においては減少し、ブロイラーにおいて急増している。これはサラリーミニモの値上げよりも牛肉の値上がりの方が高く、ブロイラーの値上りぶりが極めて低かったことを物語るものである。また、F.M.R. 1kg のブロイラー生体価格で購入出来る飼料量は年々減少して来ている。これは飼料価と対し、ブロイラー価が相対的に安くなって来ているとゆうことが言える。これらのことから、一般にブロイラーは他の物価の値上りぶりから見ると、値上げ巾が比較的安く、既述したように経済的に年々厳しい状況になって来ていることが本表からも理解出来るところである。

(2) 牛肉小売価格とブロイラー肉小売価格の比較

(単位：CR\$ 但し価格はパーソンのkg 当りである)

年 度	年 間 価 格	ブロイラー用価格
1970	4.08 P/K	4.23 P/K
71	5.02	4.41
72	5.96	5.17
73	8.91	7.18
74	11.04	8.30
75	13.94	9.82
76	16.89	13.34
77	22.53	17.24
78	40.61	25.98
79	76.75	41.34
80	140.86	66.40
81	234.52	128.13
82	433.03	205.47

(3) インフレーション指数と牛肉、ブロイラー価格指数

年 度	牛 肉 価 格	ブロイラー価格	インフレ指数
1970	100	100	100
71	1311	102.3	119.5
72	1398	139.4	138.4
73	2418	196.0	159.8
74	2746	188.5	315.1
75	2729	273.1	278.4
76	379.1	343.6	407.0
77	616.7	458.1	564.9
78	1220.0	818.1	795.4
79	3,424.4	1,185.0	1,409.4
80	3,904.4	1,850.7	2,964.0
81	6,440.4	3,254.2	5,782.0
82	12,384.4	5,885.5	11,392.1

上記(2)及び(3)表から、ブロイラー価格は1970年迄はほぼ牛肉価格1kgと同等であったが、生産回数の増加とともに徐々にその差が開き、1975年は牛肉価格の70%、1980年は47%と半額以下となり1982年迄、ほぼ47%の線で推移しており、インフレ指数との関係においても牛肉はインフレ率を上廻っているが、ブロイラーは大巾に下廻り、如何

にブロイラー生産が厳しい状況下におかれているか理解出来よう。

15. ブロイラー肉の輸出状況

ブラジルのブロイラー肉が本格的に輸出され始めたのは1975年からであるが、政府の輸出政策により年々増加して来ている。

年 度	輸 出 数 量	輸出金額 (FOB)	輸出単価 (トン当り)
1975	3,479,104kg	3,389,780US\$	97435US\$
1976	19,636,012	19,564,638	99636
1977	32,828,560	31,572,462	96173
1978	50,919,735	46,915,958	92137
1979	81,095,951	81,148,255	1,00064
1980	168,713,432	206,690,379	122510
1981	293,933,000	354,251,000	120521
1982	302,802,000	287,879,000	95071

出所：ABEF資料引用

ブラジルのブロイラー輸出数量は北米に次いで世界第2位と言われているが、輸出量の増大により競争が激化し、輸出価格は1980年のトン当り122510ドルをピークとして下落している。

1982年は95071ドル迄下っている。輸出増大によって外貨獲得を計るブラジル政府にとって、約3億ドルの輸出額は貴重な輸出源となっていて、大いに貢献していることになる。

これの輸出に当たっている企業体は約22で大インテグレーターである。サンア社、ベルジコン社、シャベコー社、ベチーニヤ社、コバーベ産組、等がその主力である。

(表-16参照)

表 16

ブロイラー肉の輸出量と輸出業者（輸出企業体）一覧

（単位：トン）

輸出企業名	年 度			
	1978	1979	1980	1981
Sadia Concordia S.A.	11,637	18,191	24,373	39,737
Perdigao S.A.	10,264	19,384	30,697	35,165
Coopave	5,850	8,754	20,840	35,153
Cia. Bras. Frigorifico		4,479	18,883	36,393
Chapeco Avicola S.A.	2,673	4,746	14,025	21,524
Gr. Betinha Ltda.	2,492	3,391	11,930	19,099
Seara Ind. S.A.	4,750	4,719	7,426	8,289
Abat. R. Branco Ltda.	2,089	2,263	4,407	11,038
Cia. Avicola Minuano	1,850	3,063	4,145	7,443
Frango Sul S.A. AV.		190	4,700	12,998
Sadia Avicola S.A.		3,735	5,119	8,426
Perdigao Agro Ind.			1,510	14,000
Sov. Avic. Louveira	2,688	3,067	4,373	3,143
Petrobras Cnt. S.A.	1,632	110	440	
Procos de Aves Rez.			189	6,999
Frij. P. Alegre Ltda.		360	2,500	1,457
Abated. Pif-paf Ltda.	965	360	751	1,310
Cia. Bras. de Frigor.			1,697	765
Da Granja S.A. P. Al.			1,308	568
Cargill Agric. S.A.			86	1,400
Avita Avic. Itatiba				1,250
Coop. Agricola de Cotia		100	450	100
Outras	4,030	4,214	8,863	16,251
TOTAL 計	50,920	81,096	168,713	293,933

（註） 出所 . ABEF資料引用

16. プロイラー用飼料の消費量の推移

飼料シンジケートの資料によると消費量の推移は下表のようになっている。

(単位：トン)

年 度	完全配合飼料	濃 縮 飼 料	完配換算量	合 計
1977	1261,877	302,100	1,078,928	2,340,805
1978	1,538,429	307,529	1,098,317	2,636,746
1979	1,744,822	404,634	1,445,121	3,189,948
1980	2,282,083	492,975	1,493,863	3,775,946
1981	2,193,814	512,542	1,553,158	3,746,972

飼料シンジケートの占める率は、全ブラジルの67%から72%で平均70%として計算すると、1981年度は5,352,817tonとなり、これは生産羽数約12億羽と一致する。(註)通常プロイラー生産飼料は1日当り、約4.5Kと計算される。)

1982年度のプロイラー生産に消費されたトーマロコンの数量は、ブラジル全体で3,527,200トンと推計されている。

これは家畜用飼料として消費されるトーマロコン全量9,010,459tonの39.14%となる。採卵鶏用は2,211,705ton 24.54%、養豚用2,403,213ton 26.67%、牛肉765,315ton 8.49%とし、プロイラー用の消費が如何に多いか判明する。

17. プロイラー用飼料価格の推移

スールブラジル産業組合の資料を引用して最近過去10年間のkg当資料価格の推移を見ると下表のとおりである。

(単位：価 = CR\$ 率 = %)

調査年月	飼 料 価 格		年度値上り率	
	前 期	後 期		
1973	1 月	0.82	0.72	36.1
	7 月	0.88	0.81	
	8 月	0.90	0.83	
	9 月	0.93	0.86	
	10 月	1.00	0.98	
1974	1 月	1.10	1.00	30.0
	9 月	1.12	1.10	
	11 月	1.32	1.30	
1975	9 月	1.42	1.40	

調査年月	飼料価格		年度値上り率
	前期	後期	
11月	1.48	1.45	35
1976 3月	1.55	1.52	34.8
5月	1.60	1.50	
9月	2.10	2.00	
10月	2.10	2.05	
1977 1月	2.30	2.25	15.7
5月	2.40	2.35	
7月	2.41	2.43	
10月	2.55	2.50	
12月	2.63	2.60	
1978 1月	2.70	2.65	62.2
3月	2.90	2.85	
4月	3.10	3.00	
4月	3.40	3.30	
5月	3.50	3.15	
5月	3.65	3.65	
6月	3.85	3.83	
7月	3.97	3.90	
10月	4.14	4.09	
12月	4.35	4.30	
1979 1月	4.60	4.36	
5月	5.30	5.00	
7月	5.50	5.25	
"	5.80	5.55	
8月	6.00	5.90	
9月	6.20	6.00	
"	6.70	6.40	
10月	7.10	6.40	
11月	7.10	6.80	
12月	7.50	7.20	
1980 1月	7.70	7.40	
"	8.80	8.70	
5月	9.10	9.20	
7月	10.20	10.00	
"	11.00	10.50	

調査年月	飼料価格		年度値上り率
	前期	後期	
1980 8月	1250	1240	1351
10月	1500	1480	
11月	1650	1640	
12月	1750	1740	
1981 1月	1800	1980	40.7
2月	1950	1900	
6月	2000	1950	
8月	2280	2100	
10月	2350	2200	
11月	2500	2400	
12月	2650	2500	
1982 1月	2700	2600	69.2
"	2800	2700	
2月	3100	3000	
3月	3200	3100	
4月	3500	3400	
6月	3600	3500	
7月	3700	3600	
8月	3800	3700	
10月	3900	3800	
11月	4300	4200	
12月	4500	4400	
1983 1月	5000	4900	
2月	5500	5300	
"	6100	6000	
3月	6400	6300	
4月	6800	6700	
"	7000	6900	
5月	7200	7100	
"	7500	7400	

18. プロイラー生産の今後の見通し

現在のブラジルにおけるプロイラー生産はその大半が、大企業体におけるインテグレーションによって行われ、この形態が今後も増加して行く傾向にあるので、今後のプロイラー産業界は除々に安定化の方向に向うものと思われる。1980. 81, 82年度と続いた不況の最大の原因は採卵鶏界同様に生産量と消費量のアンバランスによるもので、この点を反省し、生産のコントロールを取れば安定化は容易である。プロイラー生産は採卵鶏と異なり飼付後わずか56日平均で出荷される短期の畜産生産物であり、生産のコントロールは採卵鶏よりやや高い。今後の問題は国内の生産と消費の問題よりは、国際的な輸出競争力を付けることがより重要な問題と考えられる。年間30万トンから40万トンの輸出目標を持ったとしても、これが輸出価格面で負けることになれば輸出量は減少し、この余剰分が国内市場に廻り供給過剰状態を引越すことは必然の理である。トモロコシ、大豆粕、肉粉、薬品等の飼料原料価格は国際価格並に高騰した現在、ブラジルのプロイラー生産コストは急激に高くなっている。

勿論ドル換算率もインフレ以上に切下げが行われているので、それ程心配が無いとも言えるが国際競争力を持つには大きな努力が必要である。幸いここ3カ年間は飼料原料が豊作に恵まれて国内自給が可能となり、飼料不足を来たすような心配は無いと思われる。又牛肉の輸出強化によって牛肉価格が高騰しているので、牛肉の消費減に比例し、プロイラー肉の消費増加が期待されるので、生産のコントロールが良く行われる限り、今後、しばらくの間は正常な市況が続くものと考えられる。

19. プロイラー生産の問題点

ブラジルにおけるプロイラー生産の問題点は過去から現在に至るまでに相変わらず病気による生産性の低下が一番の問題となっている。

プロイラー鶏の病気としてはCRD(慢性呼吸器病)、ND(ニューカノスル病)、IB(伝染性気管支炎)大腸菌症等が多く近年はMD(マレンク病)ビールス性関節炎、MS(マイコプラスマシノビエ)等が増加して来ている。特にCRD、ND、IB等の混合感染が多く、これの被害のため、破産状況におちいった生産者は少なくない。これらの呼吸器病の発生の最大の原因としては、週単位、又は2週間、3週間、間隔に入雛飼付けする連続育雛方式があげられる。従ってインテグレーション、又は契約生産者の場合は、生産農家別、又は生産地域全体のオールイン、オールアウト式に切替え病気発生を抑えているが、生体販売をする中小の独立生産者の場合は、週単位に一定羽数の出荷をしなければならないことから危険な連続育雛を継続しなければならない状態を余儀なくされている。

養鶏家の命取りは「生産過剰による生産物価格の低落と病気である」と昔から有名な格

言が有るが、ブロイラー産業は、この病気による被害が甚大であり、ブロイラー産業の成否は病気を如何にして防ぐかにかかっていると云っても過言ではない程重要な問題となっている。

病気を防ぐ為に用いるワクチン類、諸抗生物質、サルファ剤フラン誘導体、等の価格は近年非常に高くなっている。ワクチン類は国内生産であるため、まず妥当な価格と言えるが、他の薬品類はほとんどが輸入品であり、厳しい輸入制限とドルレートの高騰によって驚く程高価である。例えば水溶性のタイロミン(タイラノソルーベル) 100g に入れ1袋が現在、CR\$10,000である。これを1,000羽入、慢性の呼吸器病(CRD)のコントロールに使用したとすればこの薬品代だけで、1羽分CR\$10.00となる。1羽の利益がCR\$5,000あるとしても、その20%がこの薬品代に相当する。生産物価格と利益額から見た薬品価格は、ブラジルの場合、非常に高過ぎるため、必然的に飼育方式を病気を出さない方式に変えざるを得なくなると思う。

JICA